

2012

大阪ガスグループ CSRレポート

OSAKA GAS GROUP CSR REPORT

Design Your Energy 夢ある明日を



〒541-0046 大阪市中央区平野町四丁目1番2号
大阪ガス株式会社 CSR・環境部
Tel.06-6205-4833
<http://www.osakagas.co.jp/>

大阪ガスは、2012年3月末時点で、
以下のSRI（社会的責任投資）関連インデックスに組み入れられています。



お読みいただくにあたって

大阪ガスグループは、自らのCSR(企業の社会的責任)を全うするために、社会からの要請に耳を傾け、それを踏まえ経営することが必要だと考えています。

本レポートでは、現在の社会情勢を認識し、ステークホルダーや有識者との対話を重ねることによって、当社グループに期待されていることは何かを考え、2つのCSR重要テーマを特集しています。

また、「大阪ガスグループCSR憲章」に基づく日々のCSRの取り組みについては、目標と実績とともに、2011年度の主だった活動を掲載しています。

■ 網羅性と重要性への配慮

当社グループは、こうした取り組みを継続的に社会に情報開示しています。本レポートで報告すべき話題を選定し優先順位をつける際には、読者アンケートの結果や各種機関の意見等を尊重し決めています。

■ 分かりやすさへの配慮

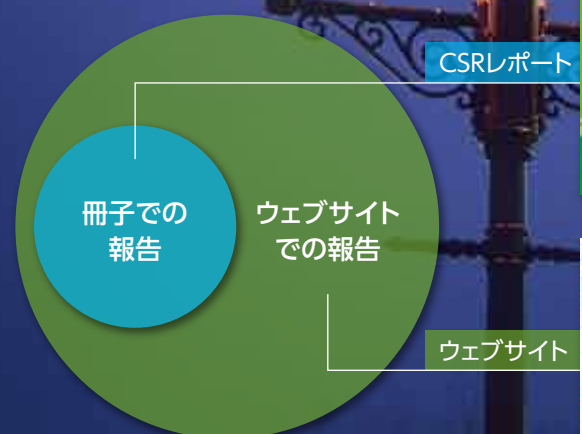
幅広い読者にご理解いただけるように、文字の大きさ、色使い、写真、図表などは表現面で工夫し、専門的な用語については用語解説を添付するなどの配慮をしています。

解説 用語解説を添付しています。
このマークをつけた言葉は用語集を参照してください。

■ 信頼性への配慮

レポートの内容や掲載データの信頼性を確保するために、第三者に検証を依頼しています。
環境パフォーマンスデータについては、ビューローベリタスジャパン(株)による第三者検証を受審しました。また、レポート全体については、簡易な審査を含む「評価・勧告タイプ」の第三者意見を(株)環境管理会計研究所から頂戴しました。

【 CSR報告のメディア 】



【 報告対象 】

■ 組織

・大阪ガス株式会社(大阪ガス)とその関係会社から成る「大阪ガスグループ」を対象としています。大阪ガス単体に関する報告については、主語を「大阪ガス」または「当社」としています。
・環境パフォーマンスデータの集計対象は大阪ガスと関係会社計80社であり、海外拠点とデータ把握が困難な「テナントとして入居している会社」は除いています。

■ 期間

直近の実績データは、基本的に2011年度(2011年4月1日～2012年3月31日)のものを報告していますが、活動内容には、2012年度のものも含んでいます。

【 参考にしたガイドライン 】

・ISO26000 **解説**
・GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第3.1版(G3.1)」
・環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
・国連グローバル・コンパクト **解説** COP(Communication on Progress)方針

【 SRIインデックスへの組み入れ状況 】

大阪ガスは、2012年3月末時点で、以下のSRI(社会的責任投資)関連インデックスに組み入れられています。
・Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index
・FTSE4Good Index Series
・ECPI Ethical Index Global(E.Capital Partners Indices)
・MSCI Global Climate Index
・Ethibel EXCELLENCE / PIONEER index
・モーニングスター社会的責任 投資株価指数

特集

[1] 全てのお客さまに、より進んだ安心・安全を 05

「安心・安全」のレベルを更に向上させる

■ 全てのお客さまに「安心」をお届けするために



[2] 天然ガス、分散型エネルギーシステムで新たな社会を 09

エネルギーを賢く使う「スマート化」を促進する

■ 創エネ・省エネとエネルギーセキュリティ強化の実現を目指して



トップコミットメント 03

大阪ガスグループの経営とCSR 13

CSRマネジメント 41

第三者意見 43

第三者検証 44

大阪ガスグループの概要 45

2011年度活動報告(ダイジェスト)

CSR重要 I お客さま価値の創造

CSR指標：
お客さま満足度調査 ― 総合満足度 89.9%

【活動事例】

・豪州イクシスLNG社の
ガス田開発プロジェクトに参画
・ガスによる発電で環境に配慮した
泉北天然ガス発電所 など

CSR重要 II 環境との調和と持続可能な社会への貢献

CSR指標：
環境経営効率 65円/千m³

【活動事例】

・低燃費型LNG船2隻の建造を決定
・LNG冷熱を利用した世界初の
大規模な省エネルギー化プロセスを導入 など

CSR重要 III 社会とのコミュニケーションと社会貢献

CSR指標：
コミュニケーション機会の接点数と実施回数

接点数 全お客さま数の1.9%
実施回数 1,673回

【活動事例】

・食の学びや火に親しむ機会を提供し、
次世代を支援
・出張授業を年間743回実施 など

CSR重要 IV コンプライアンスの推進と人権の尊重

CSR指標：
従業員コンプライアンス意識調査スコア
行動基準の意識度 86.3%
行動基準の理解度 73.2%
法令の知識度 84.0%

【活動事例】

・ISO26000等を踏まえて
「大阪ガスグループ企業行動基準」を改定
・知財・法務講習会を定期開催し、コンプライアンス意識の
維持・向上に努めています など

CSR重要 V 人間成長を目指した企業経営

CSR指標：
社員意見調査(やりがい、愛着度)
やりがい 3.80(2009年度実績)
愛着度 4.36(2009年度実績)

【活動事例】

・障がい者、高齢者が働きやすい職場を整備
・女性従業員の活躍支援 など

世の中が変わる。私たちも変わる。
そして、お客さま一人ひとりに、温もりと笑顔をお届けし、
社会の更なる発展に寄与することに挑戦します。

■大きく変化する世の中

2011年は、3月の東日本大震災、9月の台風12号、海外でも、アラブの春、タイにおける大洪水、ヨーロッパの金融危機などがありました。特に、東日本大震災は、わが国の社会・経済に大きな影響を与えました。とりわけ原発問題や電力需給問題を契機に、エネルギーの安定供給の確保、省エネルギー・省CO2などの環境性、そして、これらを十分考慮したうえでの市場機能を活用した経済効率性の向上が重要な課題となっています。

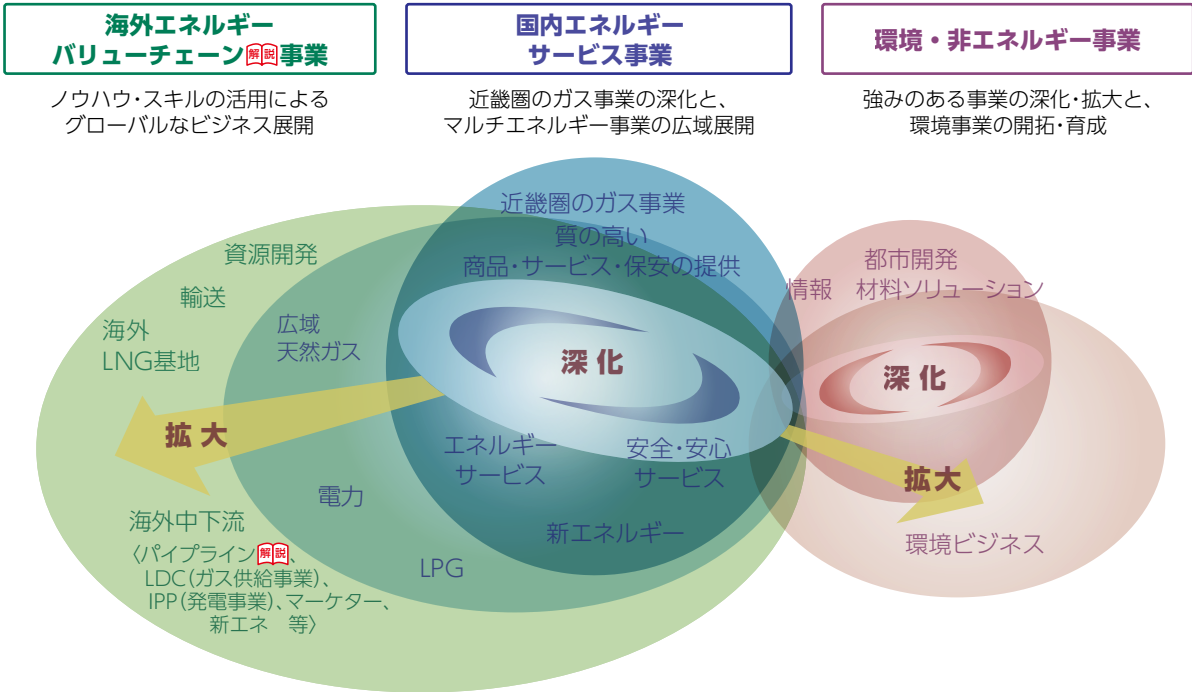
このようななか、企業・生活者の行動、意識が大きく変化し始めており、エネルギーのベストミックスと有効利用がま

すますます重要になり、これに適した天然ガスへの期待が今まで以上に高まると考えています。

私たちは、「経営環境は常に大きく変動する」ということを認識しつつ、エネルギー事業を中核にすえた企業グループとして、高まる期待にお応えし、事業を進めてまいります。こうした想いのもと、2012年度は世の中が変わる、私たちも変わる、そのことに挑戦する「Change & Challenge」の年と考えています。そして、お客さまと社会から選ばれ続け、時代が求める新たな価値を切り拓き、お客さまの快適な暮らしとビジネスの発展に貢献したいと考えています。



長期経営ビジョン・中期経営計画
「Field of Dreams 2020」



■2012年度の重点課題

- 1点目は、「全てのお客さまにより進んだ安心・安全を」です。
保安の確保では、本レポートの特集でも取り上げている平時における活動に加えて、国の中央防災会議等が想定するクラスの地震・津波に備えた対策を推進します。また、事業継続計画の見直しを行っていきます。
- 2点目は、「天然ガス・分散型エネルギーシステムで新たな社会を」です。具体的には、天然ガスを中心とした大阪ガスグループの商品・サービス・技術を最大限に活用し、エネルギーの効率的な使用を目指します。特に、燃料電池・コージェネレーションシステム・ガス冷暖房・太陽光発電の普及により、電力のピークカットに貢献します。
- 3点目は、「新たなビジネスモデル、更なる投資の拡大を」です。「近畿圏における都市ガス事業以外の国内エネルギーサービス事業」「海外エネルギーバリューチェーン事業」「環境・非エネルギー事業」の各領域での事業拡大に取り組めます。

■高い水準のCSRを目指す

以上に掲げた重点実施項目に取り組むにあたっては、より高い水準のCSRを目指し、社会・地域とより強固な絆を築

くことが重要です。

2012年度は、CSR指標を見直すとともに、社会的責任の国際規格ISO26000国連グローバル・コンパクト等国際規範に則った活動を強化します。具体的には、ISO26000が推奨する「コミュニティ参画・開発」に資する取り組みとして、地域のステークホルダーと大阪ガスグループの連携を強化するため、大阪ガスに「地域共創部門」を設置しました(2012年4月)。これまで以上に、地域のステークホルダーの皆さまと幅広く情報交換を行い、ご要望を確実に把握します。

■終わりに

本レポートでは、大阪ガスグループのCSRについての取り組みをご紹介します。読者の皆さまからの忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。

様々なステークホルダーの皆さまとの対話を通じて、長期経営ビジョン・中期経営計画「Field of Dreams 2020」を実現し、より多くの「温もりと笑顔」をお届けすることに挑戦していきます。

2012年7月

大阪ガス株式会社
代表取締役社長 尾崎 裕

「安心・安全」のレベルを更に向上させる

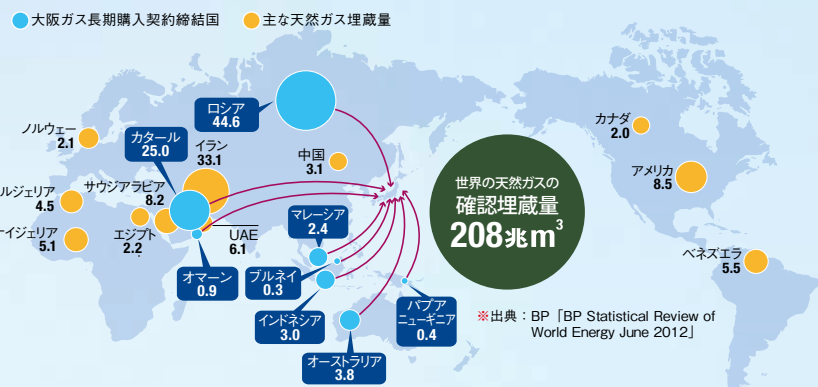
大阪ガスではこれまで、LNG(液化天然ガス)の安定的な調達、ガスの製造設備、供給設備およびお客さま先設備での「安心・安全」の確保に取り組んできました。2012年は、それぞれの取り組みレベルをさらに向上させ、お客さまの「安心・安全」により一層注力していきます。

原料の安定的な調達

調達先の多様化

都市ガス・発電の原燃料である天然ガスは、中東に偏在している石油とは異なり埋蔵地域が世界中に広がっています。また、採掘可能年数も石油より長く※、エネルギーとしての優位性が高く評価されています。大阪ガスは1972年のプルネイを皮切りに、インドネシア、マレーシア、オーストラリア、カタール、オマーン、ロシアの7カ国からLNG(液化天然ガス)を購入しています。2013年末頃にはパプアニューギニアからの購入が始まり、調達先は8カ国になる予定です。今後も調達先の多様化による安定的なLNG調達に努めていきます。

天然ガス埋蔵国と大阪ガスの天然ガス調達先



長期契約による調達

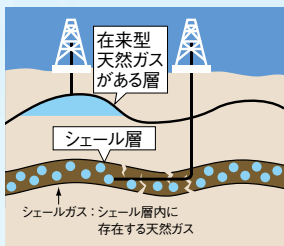
LNGの調達にあたっては、調達先の分散化とともに、輸入量の大半を長期契約に基づいて調達することで、特定国の政情に左右されないようにしています。現在契約している8カ国の長期契約に加え、2012年度からは、ロイヤル・ダッチ・シェルグループが保有する複数の供給源からLNGが供給されるポートフォリオ契約が開始します。



サンライズガス田の洋上浮体式プラント(イメージ図) 写真提供ロイヤル・ダッチ・シェル社

ガス田開発への参画

日本のエネルギー企業としては早い時期から上流事業に取り組んできた大阪ガスでは、1990年のインドネシアをはじめ、オーストラリア、オマーンでのガス田開発やLNGプロジェクトに参入し、近年では、カナダのシェールガス開発プロジェクトなど新たなエネルギー開発も積極的に進めています。



製造設備における取り組み

製造設備の耐震設計

LNGタンクなどの主要な製造設備は、阪神・淡路大震災においても被害がなく、震度7クラスの地震にも耐えられる耐震性を有しています。LNGタンクは、地中の強固な地盤に数百本の鋼管杭を打ち込んだ基礎の上に建設するとともに、二重殻構造を採用しています。



24時間体制で製造状況を監視

製造所の中央制御室では、LNGの受け入れから都市ガスの製造、送出に至るまで、全ての設備を24時間365日体制で運転・監視しています。製造所の各所に設置された防災検知器が何らかの異常を検知すると即座に中央制御室の警報が鳴り、所員が迅速に対応する体制を整えています。



LNGタンク周囲の防災設備

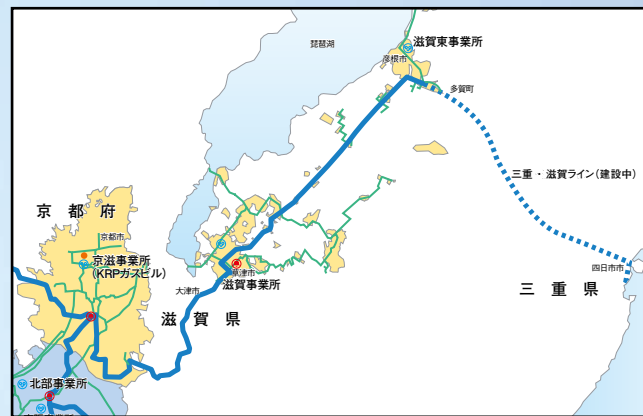
LNGタンクには防液堤を設けており、万一LNGが漏れ出しても外部に流出しない構造になっています。仮に防液堤内にLNGが流出した場合、LNGの拡散を防ぐため、大量の泡を放出する高発泡設備と、水幕をスクリーン状に形成する水幕設備を設置しています。



供給設備における取り組み

広域パイプライン網の整備

中部電力(株)と共同で、滋賀県多賀町と三重県四日市市を結ぶ三重・滋賀ライン(延長約60km、2014年完成予定)を建設しており、中部電力(株)とガスパイプラインを接続することにより、ガスの供給能力の安定性向上を図ります。



導管の耐震化への取り組み

ガスを通すパイプラインのうち、低圧導管の新設時には、高い耐震性・耐腐食性をもつポリエチレン(PE)管(樹脂管)を採用しています。PE管は阪神・淡路大震災でもほとんど被害を受けなかった導管で、現在、導管の耐震化率は8割を超えています。



お客さま先設備における取り組み

安全利用のための機器・サービスの充実と普及促進

お客さまにガスを安全にお使いいただくための様々な取り組みを進めています。不完全燃焼防止装置のないガス瞬間湯沸器や金網ガスストーブをご使用のお客さま宅に対する安全機器への取り替えを勧める活動をはじめ、ガスもれや一酸化炭素の発生を知らせる警報器の設置、異常を感知すれば係員がお宅まで出動するサービスなども提供しています。また、立消え安全装置などの安心・安全機能を搭載したガス機器「Siセンサーコンロ」の普及も促進しています。



業務用換気警報器(COセンサー)。飲食店などの業務用厨房へ必要に応じて無償貸し出しを行っています。



Siセンサーコンロ

感震遮断するマイコンメーターの普及

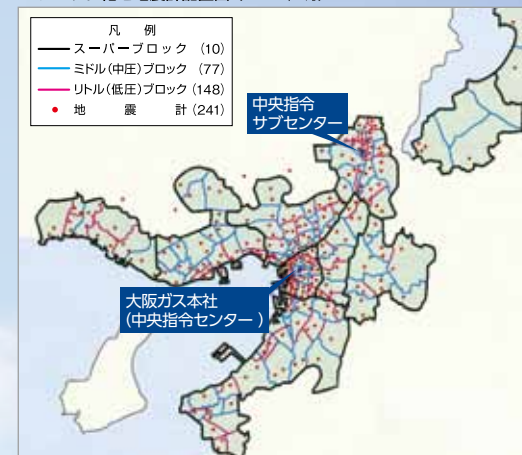
ガスの使用状況を24時間監視するマイコン型のガスメーターを導入しています。地震や多量のガスもれなどを感知した際には自動的にガスを遮断するもので、家庭用では100%のお客さまに普及しています。



供給ブロック細分化による復旧早期化

ガス供給エリア全域に地震計や主要設備の遠隔監視装置を設置しているほか、感震遮断装置、遠隔遮断装置の設置を進めています。万一、地震などの災害発生により一時的にガスの供給を停止した場合も、細分化された供給区域ブロックごとに復旧を進めることで、二次災害を防止しながら早期の復旧を可能にしています。

■ブロック化と地震計配置図(2012年3月)



従業員一人ひとりがお客さま視点で考え責任を果たしていきます

大阪ガス(株)代表取締役
副社長執行役員 保安統括

酒井 孝志



安心は、お客さまに大阪ガスグループの商品を提供する際の根幹を成すものです。社会やお客さまから求められる安心のレベルは日々変化しており、原則などの「芯」となる部分は変えない一方で、行政、地域、近隣の企業さまなどとの対話や連携を重視し、具体的業務は絶えず変化に対応できるように努めています。

今後とも引き続き、従業員一人ひとりがお客さま視点に立つとともに、いかにヒューマンエラーをなくすかという観点から前向きな課題を意見として積極的に出し合い対応策を講じることで、より高いレベルの安心をお届けできるようにチャレンジしていきます。

全てのお客さまに「安心」をお届けするために

—東日本大震災から1年が経過—

私たちは何を学び、どのように活かしていくのか

東日本大震災から1年が経過しました。国内観測史上最大のマグニチュード9.0の地震が発生し、未曾有の大津波により、東北地方の太平洋側を中心とした地域が壊滅的な被害を受けました。国の中央防災会議は津波対策の大幅な見直しを提言し、地方自治体や企業も新たな基準づくりに取り組み始めています。

大阪ガスは、今回の大震災から地震対策において最も重要なことを再確認しました。それは、何よりもまず「人命優

先」であること。お客さまはもちろん、従業員の身の安全を最優先にし、二次災害の防止とガス供給の確保に努めること。災害時における基本的な考え方を再確認し、万一の際にはそれを徹底することが重要だと考えています。

また、地元自治体や消防との合同災害訓練などを積極的に行うとともに、保安と防災に関する高度な知識や技能の伝承に努めています。

阪神・淡路大震災での経験を活かして 地震対策を強化

1995年1月に発生した阪神・淡路大震災では二次災害を防止するための供給停止を含め約86万戸（最大時）でガス供給が止まりました。このときの経験を踏まえ、「予防対策」「緊急時対応策」「復旧対策」の3つを柱にする地震対策5カ年計画を策定。耐震性の高い設備の導入や、供給停止システムの構築、従業員の訓練・教育、臨時供給手段の確保などを進めてきました。



阪神・淡路大震災での
復旧活動の様子

部門を横断した 防災プロジェクト組織を結成

東日本大震災の発生を受け、2011年10月、大阪ガス導管事業部中央保安指令部内に「新防災企画プロジェクトチーム」を発足させました。リビング事業部、エネルギー事業部など他部署の人材も含めた総勢33人が約40の課題を抽出し、ワーキング形式で防災対策の仕組みづくりを行っています。

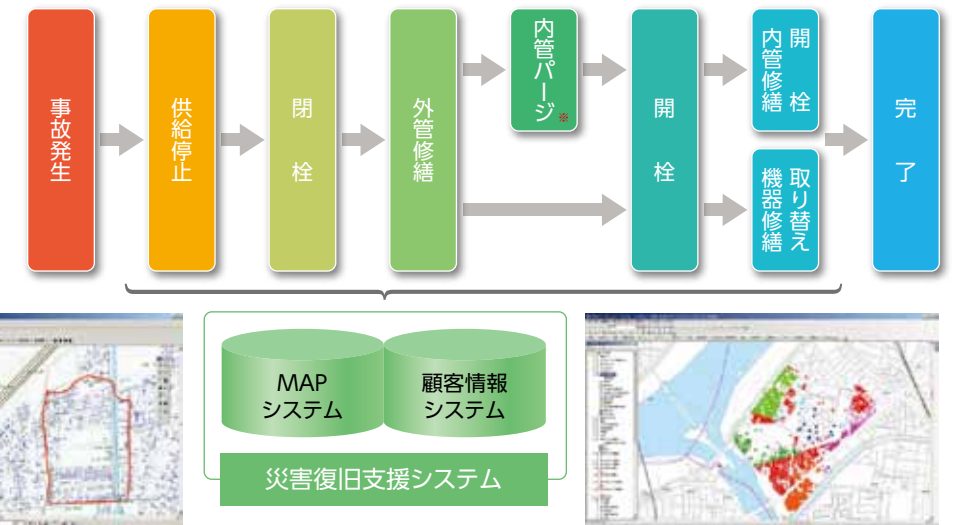
災害時は 「人命が最優先」の考えを再確認

私たちが改めて再確認したのが“人命の尊さ”でした。災害時に最も優先しなければならないのは人命です。お客さまの安全を確保するとともに、従業員も自らの命を守ることが大切です。大阪ガスでは、現場をはじめとするグループ全従業員に対し「人命最優先」を周知徹底していきます。



現場での連携をより迅速にする災害復旧支援システム「BRIDGE」の運用

災害や事故により停止したガス供給の復旧には、様々な部門が密に連携して取り組む必要があります。それには、現場状況を即時に情報共有することが重要です。大阪ガスでは、災害や事故発生から復旧に至るまでの情報を一元的にリアルタイムで管理する災害復旧支援システム「BRIDGE」を開発し、2012年4月から運用を開始しています。地図情報と顧客情報を連携させるとともに、現場における進捗状況を一元管理することで復旧作業を“見える化”し、作業完了までの期間も短縮することが可能になりました。



※ パージ：ガス管に入り込んだ空気を抜き、都市ガスに入れ替える作業

日常の保安訓練の徹底こそが 緊急時の適切な対応につながる

地震などの災害が発生した際、従業員一人ひとりが迅速かつ的確な判断ができるよう、大阪ガスでは、泉北、姫路の両製造所、導管事業部を中心に数人で行う小規模なものも含め、年間2,000回以上の防災訓練を実施しています。また、地元自治体や近隣企業とも防災協定を締結し、合同訓練を実施しています。

2011年10月には、兵庫県主催による「兵庫県石油コンビナート等総合防災訓練」が姫路製造所で実施されました。毎年1回実施されており、今回は東海・東南海・南海地震による陸上と海上での被害を想定して行われ、消防署、海上保安部、警察署、自衛隊、近隣企業など13機関140人が参加しました。重油タンクからの油漏洩と火災を想定した陸上訓練では、製造所の従業員が初動対応を担うなど、参加機関との連携強化を図りました。



兵庫県総合防災訓練（重油タンクでの火災を想定）

保安と防災の高度な 知識・技能を伝承

大阪ガスでは、保安と防災に関する高度な知識や技能を持つ人材の育成に努めています。導管事業部の「人材開発センター」では、ベテラン技能者の定年退職に備えて、2007年度に新たな人材育成体系の運用を開始しました。事故を起こさない仕組み（保安文化）を構築するため、組織的・計画的な人材育成と、作業手順の意味・背景を教える「know-whyの浸透」教育を推進しています。また、過去に発生した様々な失敗事例から得た教訓を伝承するため、失敗時の状況を再現した体感型の訓練施設等も設け、保安レベルの向上に努めています。

さらに、製造所での保安・防災に関する教育を行う「人材成長センター」や、お客さまの敷地内のガス管やガス機器を担当するリビング事業部、エネルギー事業部それぞれの「人材開発センター」でも様々な訓練が行われています。



エネルギーを賢く使う「スマート化」を促進する

豊富でクリーンな天然ガスで、青い地球を守りながら、「未来の暮らし」をスマートにしていきたい、そんな、想いを込めたスローガン「ガ、スマート！」。

天然ガスで、暮らしが、街が、未来が、スマートになっていきます。



今、問われているエネルギーのあり方

東日本大震災後、エネルギーに関して、環境性、供給安定性、経済性に加え、安全性・信頼性の確保ということが改めて認識されるなか、分散型エネルギーシステム、エネルギーの有効利用が求められています。大規模集中電源と分散型電源のベストミックス、エネルギーの有効利用と単一のシステムに偏らないエネルギーの多様性の確保が求められるなか、天然ガスへの期待が今まで以上に高まると考えています。こうした期待に応えるべく、当社は、天然ガスの普及拡大、コージェネレーションなどの導入拡大を図ります。

大阪ガスが考える分散型エネルギーシステム

工場、店舗・オフィス、ご家庭のそれぞれで、エネルギーの高効率利用や、電力需要のピークカット、停電時の自立運転機能による電源セキュリティ向上の実現を通じて、強靱なエネルギー供給構造の構築に寄与し、あわせて我が国の経済成長に貢献できること、これが、天然ガスを利用したコージェネレーションなど分散型エネルギーシステムの意義だと私たちは考えています。

さらに、地域単位で、再生可能エネルギーとコージェネレーションからつくり出される電気と熱を組み合わせ、情報通信技術(ICT)でエネルギーの最適利用を実現するスマートエネルギーネットワークの構築など、エネルギーのベストミックスを追求し、低炭素社会の実現と社会コストの低減の両面に取り組んでいきたいと考えています。

次世代をリードする技術の更なる研究開発と実用化

家庭用燃料電池、業務用コージェネレーションシステム、ガス冷暖房システムの更なる高効率化とコストダウンなど分散型エネルギー社会の実現に向けた取り組み、バイオガス・水素製造などの技術開発を進めています。



天然ガスの特性を活かし 新たなエネルギーミックスの実現に貢献していきます

大阪ガス(株) 代表取締役 副社長執行役員 経営企画本部長

北前 雅人



エネルギー・セキュリティの確保という観点から、天然ガスが果たす役割はこれまで以上に高まると考えています。そして、お客さまの行動様式や社会インフラの変革に柔軟に対応しながら、抜本的な省エネルギー対策に貢献していくことが私たちに期待されています。そのため、より発電効率の高い家庭用燃料電池の開発と普及、情報通信技術を活用し、お客さまにご負担をかけずにトータルのエネルギー利用率を高めるスマートな暮らしとビジネスの実現、太陽光発電と家庭用コージェネレーションを組み合わせ「ダブル発電システム」など、多様なサービスの提供を加速させています。新たなエネルギーミックスの実現に向けて、グループ一体となってエネルギー事業者としての責任を果たしていきます。

ご家庭や地域で、天然ガスコージェネレーション^図や再生可能エネルギー^図など分散型エネルギーシステムによる創エネと、それらをネットワーク化することで、省エネとエネルギーセキュリティ強化を実現するスマートな社会の構築に貢献します。

ご家庭で…

「スマートハウス」フラッグシップモデルの開発

“3電池”（燃料電池・太陽電池・蓄電池）を組み合わせ、CO₂排出ネットゼロの暮らしを追求しています。

「スマートハウス」のフラッグシップモデルを研究開発中です。電気と熱を賢く（スマートに）「創る・貯める・使う」ことにより、快適で環境にやさしい暮らしの実現を目指しています。2011年2月から「技術評価住宅」「居住実験住宅」の2棟の実験住宅で実証試験を実施しています。



スマートハウスを支える 3つの電池

■燃料電池「エネファーム」

水素と酸素を反応させ発電し、その時に発生する熱を住宅で利用。2012年4月には、高い発電効率(46.5%)の固体酸化物形燃料電池^図「エネファームtype-S」を発売しました。



■太陽電池

太陽光で発電したCO₂ゼロの電力を利用することで、社会全体のCO₂削減に貢献します。



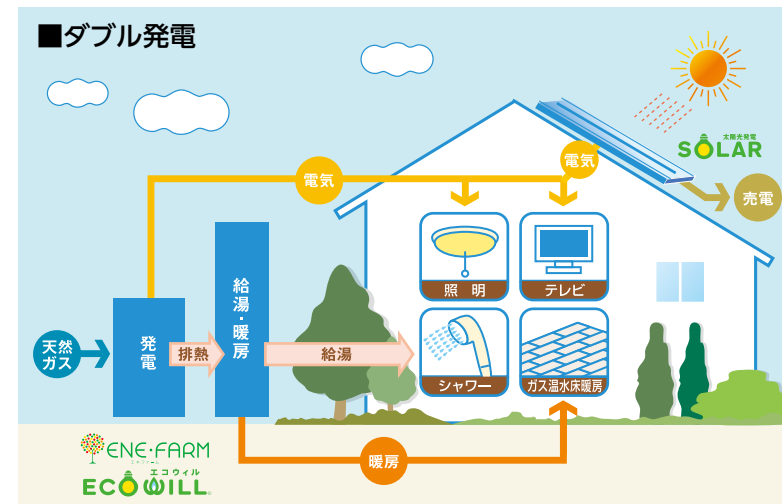
■蓄電池

燃料電池と連携して充放電を行うことで、燃料電池の運転を省エネルギー性が最大限まで発揮できるようにします。

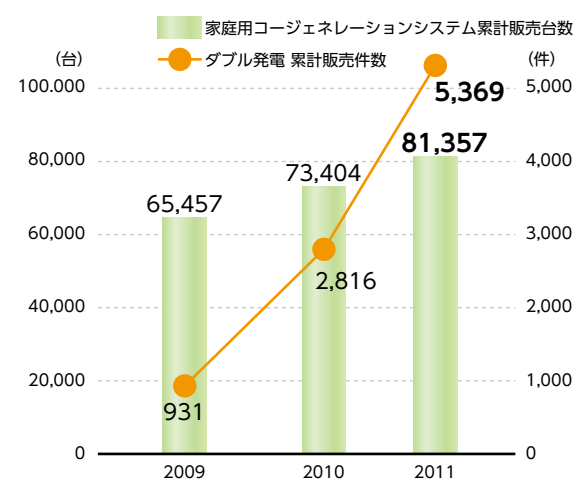


「スマートハウス」向け設備の普及

大阪ガスでは、家庭用コージェネレーションシステムと太陽電池を組み合わせた「ダブル発電」や、ご家庭のエネルギーを見える化する「エネルックPLUS^図」など「スマートハウス」向け設備の普及に努めています。新築住宅はもとより、リフォームにおいても導入を促進しています。



■家庭用コージェネレーションシステム、ダブル発電の普及状況(累計)



地域で…

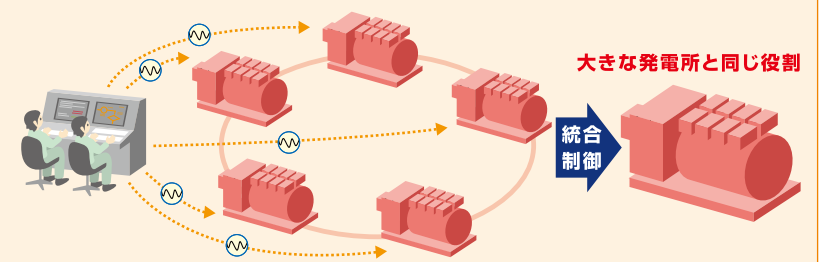
「スマートエネルギーネットワーク」の開発

「ガスコージェネレーション+再生可能エネルギー+ICT」でエネルギーコミュニティを形成し、エネルギーの融通だけでなく、分散型電源を束ねて統合制御することにより、3つの新たな価値を提供する次世代のエネルギーシステムです。

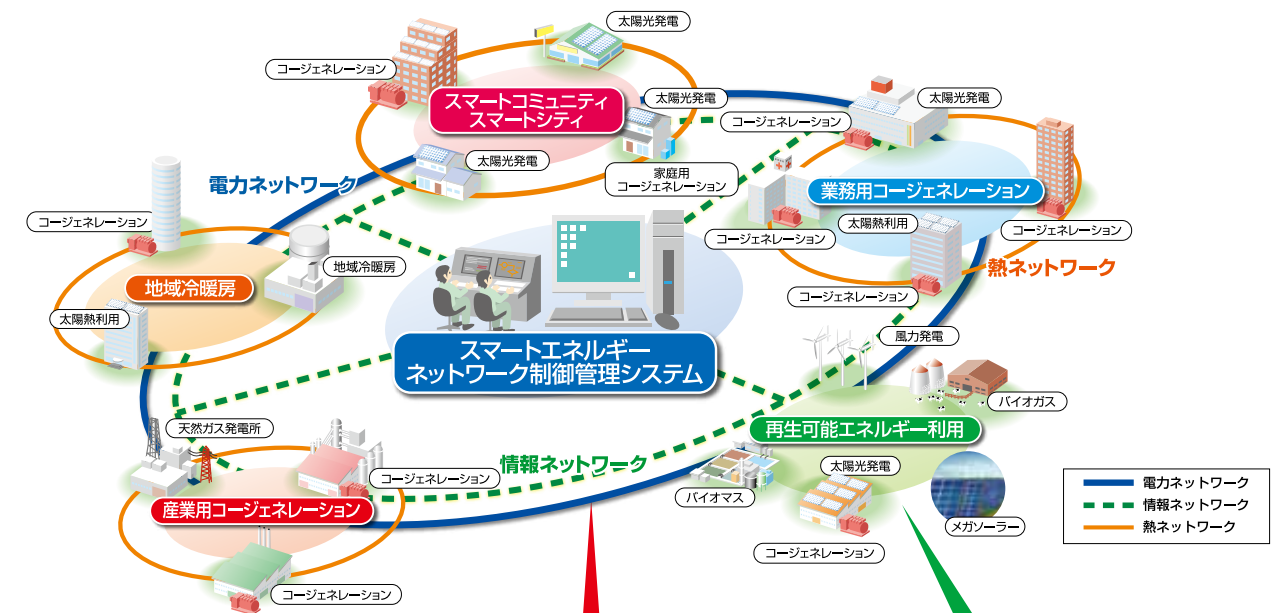
- ①更なる省エネ・省CO₂の推進
- ②エネルギーセキュリティの向上
- ③再生可能エネルギーの導入促進

大阪ガスは、2010年度から東京ガスと共同で経済産業省の「分散型エネルギー複合最適化実証事業」に参加しており、当社は9件のお客様にご協力をいただいて実証事業を進めています。

■エネルギーセキュリティの向上

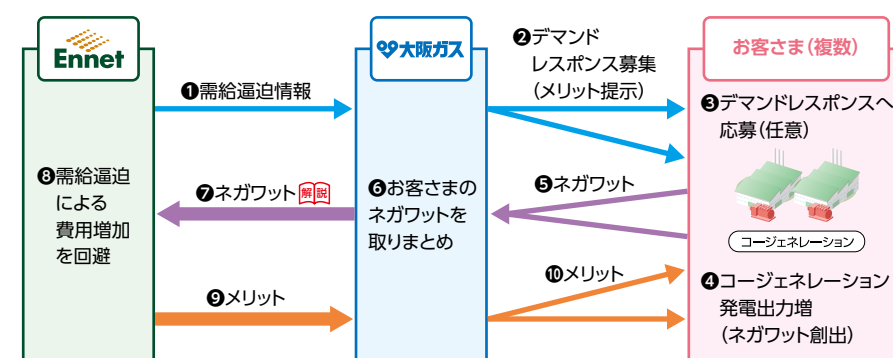


ガスコージェネレーションは、非常用発電機として利用できるなど、単独でもエネルギーセキュリティ向上に貢献するシステムです。スマートエネルギーネットワークは、分散したコージェネレーションを統合制御し、大きな発電所と同じ役割を担うことで、ネットワーク全体の安定性を更に高めることを目指します。



コージェネレーションシステムによるデマンドレスポンス

お客様のコージェネレーションの出力増加を促し、電力需給逼迫の緩和に貢献するデマンドレスポンスの取り組みを2012年6月より開始しました。



再生可能エネルギー

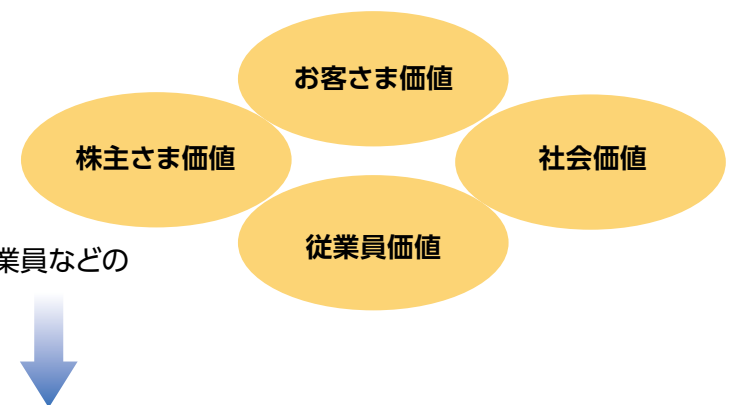
低炭素社会の実現に向けて、関係会社である(株)ガスアンドパワーが大阪市此花区、岡山県勝田郡勝央町、和歌山県有田郡広川町の3カ所で、合計約3,500kWのメガソーラー建設を進めています。いずれも2013年3月末までに運転を開始する予定です。また、バイオガス^図の活用も進めており、神戸市東灘区の下水処理施設から年間約80万m³を受け入れています。

大阪ガスグループの経営とCSR

経営理念

「価値創造の経営」

大阪ガスグループは、
お客さま価値の最大化を第一に、
公正で透明な事業活動を通じて、株主さま、社会、従業員などの
全てのステークホルダーの価値をともに高めていく
「価値創造の経営」を基本理念としています。



大阪ガスグループのCSR経営・CSR指標の改定

大阪ガスグループでは、お客さま価値の最大化を第一に、公正で透明な事業活動を通じて、株主さま、社会、従業員などの全てのステークホルダーの価値をともに高めていく「価値創造の経営」を基本理念としており、この価値創造の経営を実現することが、当社グループのCSR(社会的責任)を全うすることと考えています。

企業の社会的責任を全うし、大阪ガスグループが持続的な発展を図っていくため、2006年、5つのCSR憲章を定めました。また、2007年に日本の公益企業としては初めて、国連グローバル・コンパクトへの参加を表明し、2008年には、「大阪ガスグループ企業行動基準」(2000年制定)を国連グローバル・コンパ

クトに合致した内容に整備しました。

さらに、多岐にわたるCSRの取り組みを概括できるよう、2009年から5つの憲章ごとに象徴的な数値を指標として策定・公表し、ステークホルダーとの対話や取り組み推進に用いています。

大阪ガスグループでは、CSRの取り組み推進と「見える化」のために「CSR指標」を策定しています。現在の目標は2009年度から開始し2011年度までの達成目標となっているため、これまでの取り組みを踏まえながら新しい指標として一部改定を行いました。

大阪ガスグループ「新・CSR指標」

CSR憲章	現行のCSR指標 <2009-2011>	新・CSR指標 <2012-2013>	備考
I	「お客さま満足度」 総合満足度82%以上	「お客さま満足度」 総合満足度85%以上 全ての顧客接点業務で82%以上 (サービスレベルの均質化)	全体の満足度レベルを上げつつ、個々の業務でクリアすべき水準を設定し、サービスレベルの均質化を図ります。
II	「環境経営指標」 91円/千㎡以下	「環境経営指標」 68円/千㎡以下 (環境負荷に水(上水・工水)も追加)	金額換算対象となる環境負荷(都市ガス事業のGHG、掘削土、廃棄物、NOx、COD、化学物質の環境負荷の金額換算値/ガス販売量)に水を追加します。
III	「コミュニケーション機会」 実施回数：365回以上 接点数：お客さま数の1%以上	「コミュニケーション活動」 実施回数(「食育」、エネルギー環境教育等の出張) 1,000回 接点数(科学館等の常設施設) 70,000人以上 社会貢献活動 実施回数600回以上	これまでに大阪ガスグループに蓄積された有形無形の資産を社会に還元する活動を「コミュニケーション活動」と定義します。 2012年度より計数対象を関係会社に拡大します。
IV	「コンプライアンス意識調査スコア」 ・企業行動基準の意識度 ・企業行動基準の理解度 ・法令に関する知識度 の対前年向上	「コンプライアンス意識調査スコア」 (個人)行動基準理解度：対前年向上 (組織)組織の「体質化」度：対前年向上 コンプライアンス研修受講率100%	年1回、関係会社を含めて実施している「コンプライアンス意識調査」のスコア(組織・個人)および組織における実活動を指標として設定します。正社員以外の直接雇用している者も、調査対象に含めます。
V	「社員意見調査」 やりがい、会社への愛着度の 適正水準維持	「社員意見調査」 やりがい、愛着度の適正水準維持	新人事制度のもとで実施します。

環境目標の改定

CSR指標とともに、環境目標の改定を行いました。長期経営ビジョン・中期経営計画「Field of Dreams 2020」で示した2020年への方向性のもとで、2013年度までの新たな目標を策定しました。

新たな環境目標では、これまでの目標の目指す水準を更新するとともに、東日本大震災後の情勢も踏まえ、温室効果ガス排出削減とともにエネルギーセキュリティ向上に資する取り組み、バリューチェーンに広げた環境貢献等を含む目標としました。

(環境目標の詳細については、ウェブサイトをご覧ください)

http://www.osakagas.co.jp/company/csr/beginning/csr_index.html

主な改定内容

これまでの目標の目指す水準を更新したうえで、次の新たな目標を追加。

- お客さま先の取り組み
(CO₂削減とエネルギーセキュリティに資する目標)
- バリューチェーンの取り組み
(バリューチェーンのCO₂削減、3Rに関する目標)
- 環境技術開発の取り組み強化

担当者の思い 大阪ガス(株) CSR・環境部 CSR室 室長 田畑 真理

CSR指標を策定・公表し、ステークホルダーとの対話や取り組み推進に用いています。

多岐にわたるCSRの取り組みを「見える化」しようと、5つの憲章ごとに象徴的な数値を策定・公表し、ステークホルダーとの対話、および、活動推進に用いています。CSRの水準向上を目指し2013年度までの指標を作成しましたが、2020年に向けて、グループ全体をカバーできるようCSR指標の改善を進めます。



「大阪ガスグループ企業行動基準」の改定

2010年11月に国際標準化機構(ISO)からISO26000 が発行されました。これは、社会を構成するあらゆる組織がその社会的責任とは何かを特定し、実施していくうえで適用することができるガイダンス文書です。これに先立ち、一般社団法人 日本経済団体連合会は、2010年9月に企業行動憲章を改定しました。これらの社会動向を踏まえ、「グローバルな事業活動における、

各国・地域の法令、人権に関するものを含む国際規範の尊重」「サプライチェーン への社会的責任を踏まえた行動促進」の視点を反映すべく、2011年7月に「大阪ガスグループ企業行動基準」を改定しました。国連グローバル・コンパクト 、ISO26000と企業行動基準18項目の関係性を下記に示しています。

国連グローバル・コンパクト、ISO26000と「大阪ガスグループ企業行動基準」(2011年7月改定)との関係

国連グローバル・コンパクト		ISO26000中核課題	大阪ガスグループ企業行動基準
		組織統治 (コーポレート・ガバナンスP.41 参照)	
人権	原則1 企業はその影響の及ぶ範囲内で国際的に宣言されている人権の擁護を支持し、尊重する	人権 大阪ガスグループ企業行動基準 1 3 4 5 13	1 人権の尊重
	原則2 人権侵害に加担しない		2 安心して働ける職場づくり
労働基準	原則3 組合結成の自由と団体交渉の権利を実効あるものにする	労働慣行 大阪ガスグループ企業行動基準 2 3 4 5 13	3 法令等の遵守 ★
	原則4 あらゆる形態の強制労働を排除する		4 公私のけじめ ★
	原則5 児童労働を実効的に廃止する		5 各国・地域の法令、人権に関するものを含む各種の国際規範の尊重 ★
	原則6 雇用と職業に関する差別を撤廃する		6 環境保全への配慮
環境	原則7 環境問題の予防的なアプローチを支持する	環境 大阪ガスグループ企業行動基準 3 4 5 6 13	7 独占禁止法の遵守および公正な取引の実施
	原則8 環境に関して一層の責任を担うためのイニシアチブをとる		8 商品・サービスの提供 ★
	原則9 環境にやさしい技術の開発と普及を促進する		9 商品・サービスの安全性の確保
			10 お客さまとの対応
腐敗防止	原則10 強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗を防止するために取り組む	公正な事業慣行 大阪ガスグループ企業行動基準 3 4 5 7 12 ~ 18	11 社会への貢献 ★
			12 関係先・取引先との交際
		消費者問題 大阪ガスグループ企業行動基準 3 4 5 8 9 10 13	13 取引先への理解促進、協力の要請 ★
		コミュニティ参画および開発 大阪ガスグループ企業行動基準 3 4 5 11 13	14 情報・システムの取扱い
			15 情報の公開 ★
			16 知的財産の取扱い
			17 反社会的勢力との関係遮断、利益供与の禁止
			18 適正な納税と経理処理 ★

★ 見直した項目

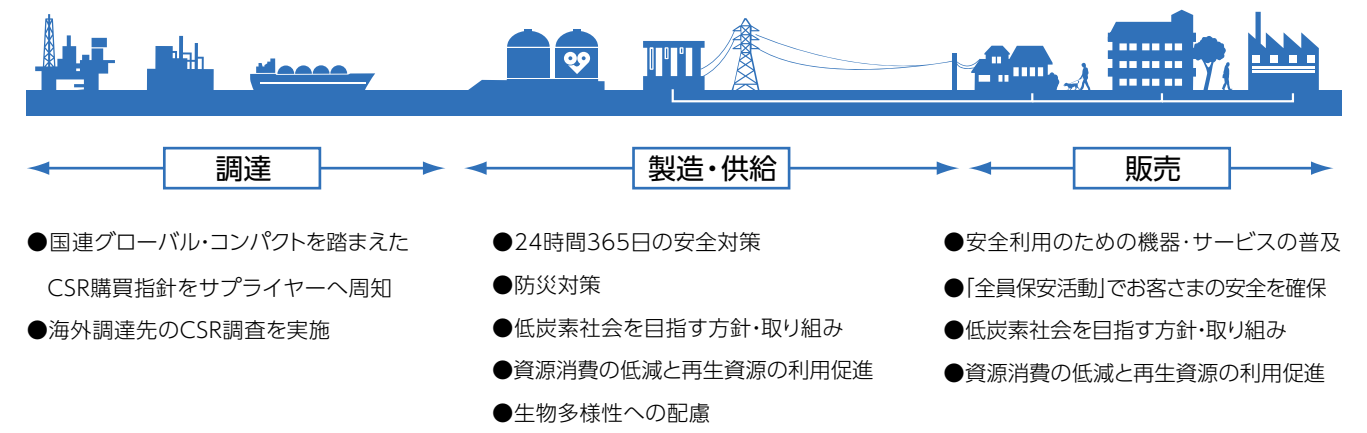
ISO26000  中核課題への基準1-18 (青色  白抜き文字で表現)の対応状況を示しています。

★見直した項目
ISO26000  中核課題への基準1-18 (青色 ■ 白抜き文字で表現)の対応状況を示しています。

バリューチェーン で見た大阪ガスのCSR活動

大阪ガスの主なCSR活動を、調達から製造、供給、販売に至るまでの企業活動の全てのプロセス(バリューチェーン)を整理すると下記ようになります。今後も、バリューチェーン全体を当

社の責任範囲と考え、社会に価値を創造する行動を徹底し、当社および社会の持続可能性を追求します。



ステークホルダー・ダイアログ「サプライチェーン・マネジメント」

大阪ガスは、「サプライチェーン・マネジメント」をテーマに、ステークホルダー・ダイアログを開催しました。国連グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワークにおいて、サプライチェーン・マネジメント分科会に参加されている流通業や製造業などの社外ステークホルダー4人をお招きし、大阪ガス従業員代表6人との意見交換会を行いました。意見交換の詳しい内容は、ウェブサイトをご覧ください。

 <http://www.osakagas.co.jp/company/csr/dialog/>



サプライチェーン・マネジメントは優先順位をつけてできるところから

関西地域、インフラ業界におけるCSRのリーダーシップに期待

ガスの安定供給に向け、引き続き安心・安全な取り組みを

ユーザーの省エネルギー活動を積極的にサポートしていただきたい



イオン株式会社
西面 和巳 氏



ウシオ電機株式会社
氏家 啓一 氏



シャープ株式会社
佐藤 仁 氏



ダイキン工業株式会社
曽地 修一 氏

I お客さま価値の創造

大阪ガスグループは、天然ガスをコアとするマルチエネルギーの安定供給、保安の確保およびサービスの向上を通じて、お客さまの快適な暮らしとビジネスの発展に貢献していきます。加えて、社会的に有用な商品・サービスの提供によって、新しい価値の創造に挑戦し、お客さまとともに進化し発展し続ける企業グループを目指します。

Highlight

- 東日本大震災の都市ガス復旧応援
- 災害復旧支援システム「BRIDGE」の運用開始(特集1 P8)
- 新コンセプトワード「ガ、スマート!」の導入(P9)

目標と実績

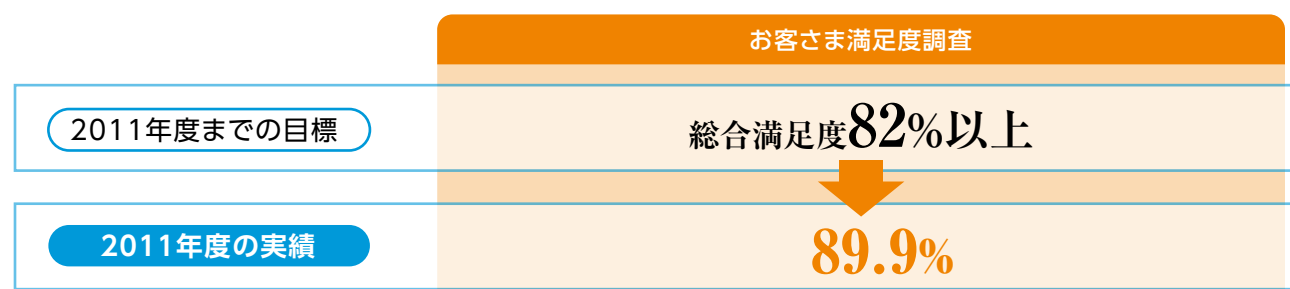
CSR指標：

お客さま満足度調査：総合満足度

「お客さま満足度調査」の対象は、「開栓」「機器修理」「定期保安巡回(ガス設備調査)」「電話受付」「検定満期によるガスメーターの取り替え」「機器販売」「ガス警報器販売」「セキュリティサービス」「ステーション24[※]販売」等、お客さまに直接対応する業務です。各業務完了後にアンケート用紙を郵送して、「総合満足度」と「業務品質」への評価をご回答いただき、集計しています。

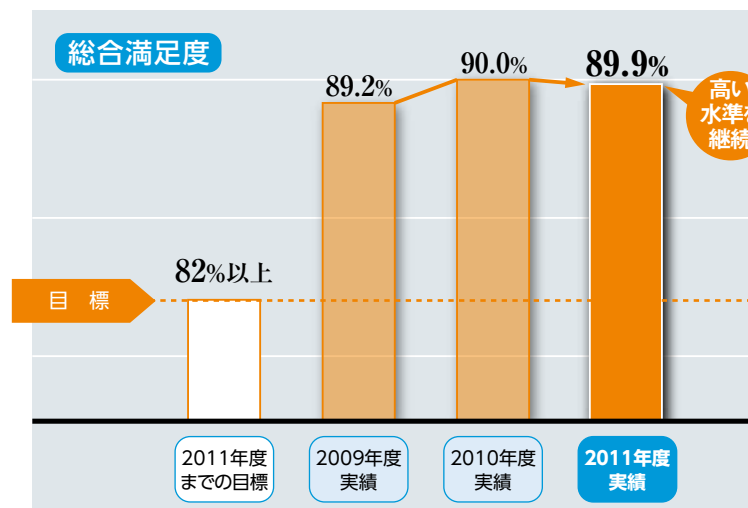
「総合満足度」は、満足度が6段階のいずれなのかを問い、上位2段階に相当するとの評価が全体に占める割合。「業務品質」は、各業務の主要作業と、満足度向上に寄与する作業への評価をレベルに応じて点数化し、100点満点で表したものです。

※ ステーション24：通信技術を活用してお客さま宅の安心・安全を24時間見守るサービス



2011年度実績について

大阪ガスでは、業務品質の向上を目指して1988年度からお客さま満足度調査を実施しており、2011年度の実績は89.9%でした。お客さまからいただいた声をもとにお客さま視点に立ったサービスの提供に取り組んでいます。



大阪ガス(株)
リビング事業部 お客さま部長
山村 功

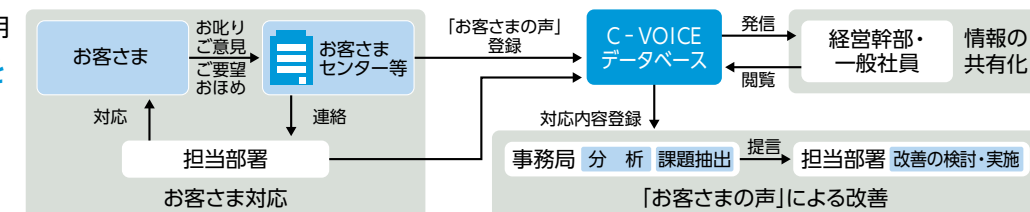
お客さまの“よきパートナー”であり続けるために、時代に即したCSを実践しています。

私たち大阪ガスグループでは、これまでも社是である「サービス第一」の精神に基づき、お客さま満足の向上に努めてきました。また、2011年度には新たな「CS行動基準」を制定し、時代に即したお客さま満足の実現に取り組んでいます。お客さまから“よきパートナー”としての信頼を得て、選ばれ続ける企業であるために、これからもお客さまの声を大切に受け止めます。また、お客さまの真の期待に応えるとともに、未来のニーズを先取りした価値ある提案を行い、お客さまの快適な暮らしとビジネスの発展に貢献してまいります。

基本的な考え方

お客さまに“よきパートナー”として信頼され選ばれるよう、お客さまの声を大切に受け止め、価値ある提案によりご期待に応えます。また、安心・安全を第一に快適な暮らしの実現に向けて一層のサービス品質の向上を図ります。

「C-VOICE」の活用 「お客さまの声」を 業務改善に 活かす仕組み



2011年度調査で得られたご意見・ご要望とこれに基づく改善策

要望1 リユースメーターに対するご意見

【お客さまの声】

「新築の家には新品のメーターを取り付けて欲しい」
「取り替え後のメーターが中古のようで気分が悪い」

改善1 ガスメーターを再利用していることを分かりやすく表示しました

ガスメーターに取り付けられている説明書の記載内容を見直し、ガスメーターをリユースしていることを表示しました。なお、ガスメーターは1台あたり約2kg^{※1}アルミニウムを使用しており、これを再利用することで、新品製造に比べてCO₂排出量を約80%^{※2}削減することができます。

※1 2.5号メーターから6号メーターの平均
※2 新品製造も再生アルミとして試算



要望2 ガスコンロのお手入れ性へのご意見

【お客さまの声】

「グリル焼網を洗うときに、“脚がじゃま”といつも思う」
「固定脚があると、グリルから焼網を取り出しにくい」

改善2 グリルの焼網から固定脚をなくしました

両面焼のグリルに、これまで必要であった焼網の固定脚をなくした機種を開発しました。今後は、この固定脚のないグリル焼網の採用機種を順次増やしていく予定です。



※一部の機種にのみ対応しています。

活動事例 お客さまの快適な暮らしとビジネスの発展



大阪ガス行動観察研究所の調査風景。行動観察により、お客さまのサービス・生産性向上に貢献

中央指令室(通報の受け付け)



地震訓練



安心・安全 ～安定調達～

豪州イクシスLNG社のガス田開発プロジェクトに参画



イクシスLNGプロジェクト

大阪ガスでは、LNG 国産の経済的・安定的な調達を目指して、ガス田開発やLNGプロジェクトなどの上流分野に進出しています。特に近年、豪州のガス田開発プロジェクトへ積極的に参画しており、2011年12月には、オーストラリア西北部沖合のイクシスガス・コンデンセート田をガス供給源とする「イクシスLNGプロジェクト」への参入を決めました。2017年からの15年間で年間約80万トンを購入する計画です。

数字で見る
CSR活動7カ国
LNG調達先の国数2,954カ所
地震自動遮断装置の設置数94.3%
立消え安全装置付きテーブルコンロの普及率

担当者の思い

大阪ガス(株) 資源・海外事業部 資源・海外開発部 エネルギー開発第1チーム マネジャー
生田 哲士2020年のLNG取扱量年間150万トンを目指し
上流事業への投資を進めています

当社は2011年に参画を発表した「イクシスLNGプロジェクト」をはじめ、現在世界5カ国で10件の石油・ガス開発事業に参加しています。上流事業への参加を通してLNGの安定的・経済的かつ柔軟な調達、および持分LNGを利用したトレーディング事業の拡大を目指しており、長期経営ビジョン・中期経営計画「Field of Dreams 2020」で示したとおり、2020年には上流参加を通して当社が関与するLNGの量を現在の10万トン/年から、2020年には150万トン/年に増やすべく、今後も上流事業への投資を進めていきます。



に貢献していく

マルチエネルギー事業

ガスによる発電で環境に配慮した泉北天然ガス発電所

エネルギーに対するお客さまニーズが多様化するなか、天然ガス、電力、LPG(液化石油ガス)、熱エネルギーなどのベストミックスをご提案するマルチエネルギー事業者として、電力事業に取り組んでいます。その中核となる「泉北天然ガス発電所」(全4基、総発電出力110万9kW)が泉北製造所構内において2009年度から営業運転を開始しています。環境負荷の少ない天然ガスを燃料とし、発電効率の高いガスタービンコンバインドサイクル方式 国産を採用した環境に配慮した発電所です。

また、国内3カ所、国外1カ所で風力発電も展開しています(合計発電容量(当社持分)9.9万kW)。



泉北天然ガス発電所

お客さまの声を活かす

消費者団体の皆さまからいただいた
ご意見を経営に反映

「お客さまの声」を経営や業務の改善に活かしていくため、大阪ガスでは、消費者団体の皆さまからご意見を伺う機会を設けています。関西各地区の消費者団体が組織している関西消費者団体連絡懇談会の代表の方々とは毎年1回、当社の経営幹部が直接意見交換をさせていただいています。2011年度は、震災時の対応策や予防対策に関すること、エネルギーの分散化に関することなど、東日本大震災を踏まえたご意見が多数寄せられました。頂戴したご意見は「C-VOICEシステム」等を通じて社内各担当部署に伝え、業務改善等に活かしています。



消費者団体の代表の方々と経営幹部が意見交換

新たな価値提案

サービス対象機種を拡大し、利便性が向上した
ガス給湯器の保証サービスを開始

大阪ガスは、月々の保証料金をお支払いいただくことで、ガス給湯器やガス温水式床暖房などが故障した場合の無償修理・定期点検を、購入年月から最大10年間実施する保証サービス「給湯らく得保証」を2011年9月1日から開始しました。大阪ガスブランド以外のガス機器メーカー製品もサービス対象としており、購入時はもちろん使用途中でも契約が可能で、機器メーカー保証期間終了後も安心してガス機器をご利用いただけます。

安心・安全 ～消費段階～

製品に関する事故や不具合の情報を迅速に公表

大阪ガスは、自社が販売・設置施工・修理したガス機器に起因する製品事故や不具合・トラブルが発生した場合、プレス発表や社告、ウェブサイトなどを通じて迅速に情報を公表するとともに、当該製品の点検・修理・部品交換などを実施しています。2011年度は、BFふろ釜*の製品の一部(462台)において、使用時に微量のガスが製品内部に漏洩する可能性があることが判明したため、点検および部品交換作業を自主的に実施しました。

*BFふろ釜：浴室内に設置し、屋外から取り入れた空気により燃焼し、屋外に排気する給排気方式のふろ釜

PC ガス機器に関する大切なお知らせ <http://www.osakagas.co.jp/safety/6-information.html>

環境との調和と持続可能

地域および地球規模の環境保全は、エネルギービジネスを中心に事業展開する大阪ガスグループにとって極めて重要な使命です。大阪ガスグループは、我々のあらゆる活動が環境と深く関わっていることを認識し、事業活動を通じて環境との調和を図り、エネルギーと資源の効率的利用を実現することによって、持続可能な社会の発展に貢献します。

Highlight

- LNG冷熱を利用した世界初の大規模な省エネルギー化プロセスを導入
- 家庭用固体酸化物形燃料電池(SOFC)  コージェネレーションシステム販売開始(P11)
- お客さまによる初期投資が不要な太陽光発電設備導入スキーム「ソーラーエコウエーブ」の開始

目標と実績

CSR指標：

環境経営指標：環境経営効率

大阪ガスは、環境経営の進展を継続的・一元的に評価する「環境経営効率」を指標として策定し、運用してきました。この指標は、ガス販売量当たりの6種類の環境負荷—温室効果ガス(GHG ) 排出、NOx排出、COD ^{※1}、一般廃棄物・産業廃棄物の最終処分、掘削土 ^{※2} ) の最終処分、化学物質排出—の発生量・数値を金額換算することで、環境負荷の軽減状況を定量的に把握できるようにしたものです。

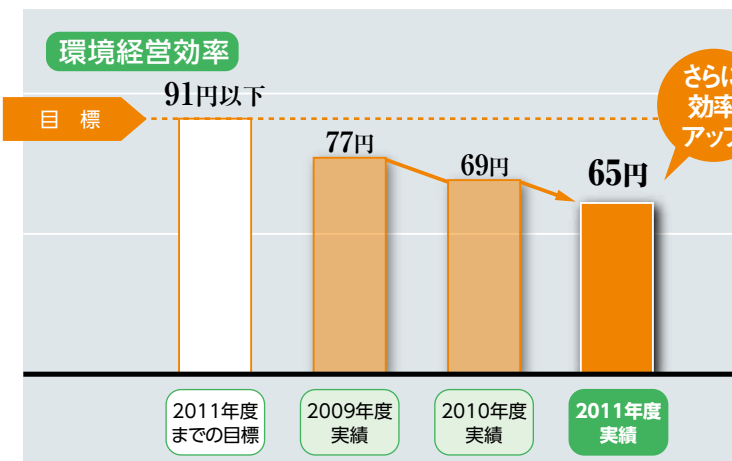
環境経営効率は、数字が小さいほどガス販売量あたりの環境負荷が軽減されていることになります。

※1 COD：化学的酸素要求量。数値が高いほど、水中の汚染物質の量が多いことを示しています。ここでは、排水量を乗じた質量で表しています。
 ※2 掘削土：ガス導管  を道路に埋設や移設する工事の際に出てくる、土砂やアスファルト廃材のこと。



2011年度実績について

都市ガス製造所におけるLNG冷熱の効率的な利用による購入電力削減や、導管工事に伴う掘削土の最終処分量の削減により、環境経営効率の計算式で「分子」にあたる環境負荷(金額換算)は567百万円と、前年度よりも約4%減少しました。また、「分母」にあたる都市ガス販売量は約2%増加したため、環境経営効率は前年度の69円/千m³から65円/千m³に改善するとともに、2011年度の目標である91円/千m³を大幅に上回って達成しました。



な社会への貢献



大阪ガス(株)
CSR・環境部長
加賀城 俊正

責任者より

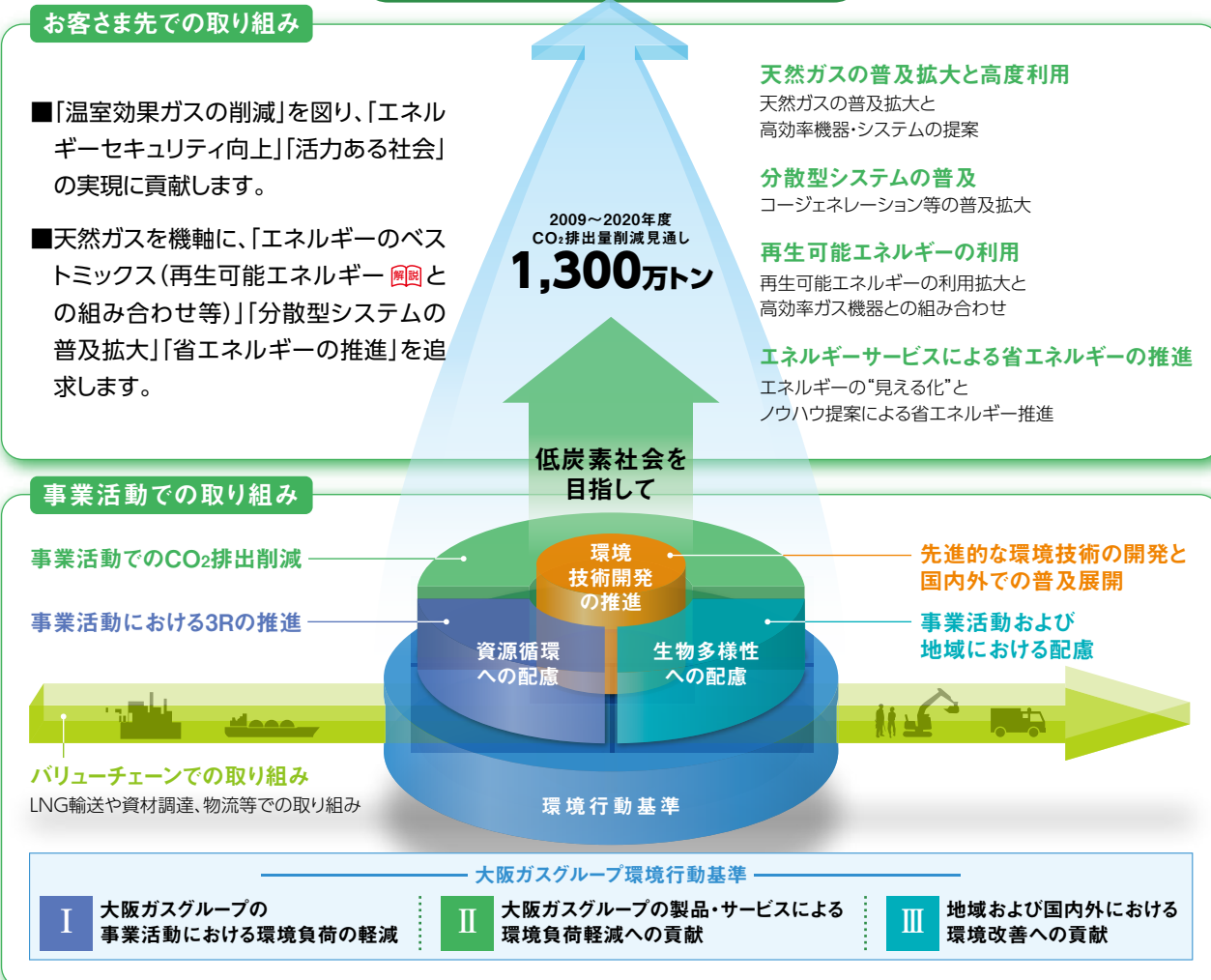
持続可能な社会を目指し、
“一歩先を見据えた環境の取り組み”を追求します。

大阪ガスグループは、地球環境保全という使命を認識し、率先した取り組み、先取りした商品・サービスのご提供に努めています。2011年度は、東日本大震災後の情勢も踏まえ、温室効果ガス排出削減とともにエネルギーセキュリティ向上に資する取り組み、環境技術開発、バリューチェーン  に広げた貢献を織り込んだ新環境目標を策定しました。一歩先を見据えた取り組みを推進し、お客さま、事業パートナーさまとの連携の輪を広げ、持続可能な社会への役割を果たしていきます。

基本的な考え方

低炭素社会実現への貢献を重要課題と考え、長期経営ビジョン・中期経営計画「Field of Dreams 2020」のもとで、お客さま先での温室効果ガス排出削減を進めています。また、事業活動に伴う温室効果ガス削減、資源循環等に関する中長期目標を策定して取り組んでいます。

持続可能な社会への貢献



活動事例 環境との調和を図り、エネルギーと資源の

低燃費型LNG船2隻の建造を決定

大阪ガスでは都市ガス原料となるLNG輸送時に更なる省エネルギーを実現する低燃費型のLNG船2隻の建造を決定しました。新型LNG船は「さやえんどう」型の船型により空気抵抗を大幅に軽減するとともに、新型蒸気タービン機関の採用で、従来船比20%以上の低燃費を実現し、CO₂排出量の抑制と輸送コストの低減を図ります。



新型LNG船のイメージ図

LNG冷熱を利用した世界初の大規模な省エネルギー化プロセスを導入

大阪ガスではLNGが持つ冷熱を都市ガス製造所の省エネルギー等に利用しています。泉北製造所のLNG冷熱を近隣の石油化学工場で効率的に利用するプロセスを開発しました。エチレンプラントでは世界初となる大規模なLNG冷熱有効利用は、泉北第一工場のLNG冷熱利用率100%達成に貢献するとともに、CO₂排出量を年間約3.8万トン削減します。本事例は、「2011年度省エネ大賞」の経済産業大臣賞を、三井化学(株)、大阪石油化学(株)と共同で受賞しました。



エチレンプラント

効率的利用を実現する

オフィスでの省エネルギーに取り組む「グリーンガビル推進活動」を展開

大阪ガスでは、「グリーンガビル推進活動」を展開しています。自社ビルを省エネルギー検証サイトにして、行動観察を利用した省エネルギー、再生可能エネルギー導入など、様々な先進的対策に取り組み、検証で得られた成果をお客さま先や関係会社に展開していきます。2011年度は、節電・省エネルギーに資する新機能を有するエネルギー管理システム「もっとsave」の先駆導入等を行いました。



もっとsaveの画面

お客さま先で分散型システム、再生可能エネルギーの普及等を推進

お客さま先のCO₂削減に貢献するため、天然ガスを機軸に、様々な製品・サービスの開発・普及に努めています。2011年度は、節電要請にも資する次のような取り組みを推進しました。

- 電力ピークカットにも貢献するコージェネレーションの販売
 - ・家庭用燃料電池「エネファーム」3,193台
 - ・業務用コージェネレーション162台/2,198.3kW
- 太陽光発電の提案を強化
 - ・初期投資が不要な業務用太陽光発電導入サービス「SOLAR-ECOWAVE」開始
 - ・家庭用太陽光発電を2,126件販売
- エネルギー“見える化”のためのサービス提供
 - 「エネルギーPLUS」415件、「もっとsave」15件



SOLAR-ECOWAVE (淡路島)



LCA*による化石燃料の温室効果ガス排出量(CO₂換算)評価

下表は化石燃料が採掘され燃焼されるまでの各段階における温室効果ガス排出量の比較です。LNGは、他の化石燃料に比べて温室効果ガス排出量が最も少ないクリーンなエネルギーです。

■ 排出量評価 (g-CO ₂ /MJ、総発熱量基準)				
	石炭	石油	LPG	LNG(天然ガス)
生産	4.58	4.06	4.94	9.17
輸送	1.71	0.79	1.80	1.97
設備	0.11	0.08	0.11	0.04
燃焼	88.53	68.33	59.85	49.40
合計	94.93	73.26	66.70	60.58
比率	157	121	110	100

* LCA (Life Cycle Assessment) : 製品やサービスについて、使用される資源の採取から製造、輸送、使用、リサイクル、廃棄に至る全ての工程での資源やエネルギーの消費、環境に与える負荷の程度をできる限り定量的かつ総合的に調査・分析・評価する手法。

(出典) 「LNG及び都市ガス13Aのライフサイクル温室効果ガス排出量の将来予測」(「エネルギー・資源」第28巻、第2号 2007年3月)

生物多様性に配慮したユニークな緑地管理

大阪ガスの姫路製造所では、10年以上前から生物多様性に配慮したユニークな緑地管理に取り組んでいます。具体的には、間伐とチガヤ草原整備によって管理コストを削減しながら、地域性種苗*の優先導入など専門家のアドバイスに基づく先進的な取り組みを実践しています。2011年度は構内緑地の見学ルートを整備し、当社も正会員となっている「企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)」メンバーをはじめとした、この分野に関心の高い企業の方々、地域のお客さまなど多くの方が見学にいられました。

* 地域性種苗: 植栽する地域にもともと生えていた植物の種などから育てた苗のこと。地域性種苗を植栽することは、地域固有の遺伝資源を守ることに繋がります。



姫路製造所での従業員向け勉強会

バリューチェーンにおける3Rの取り組みを推進

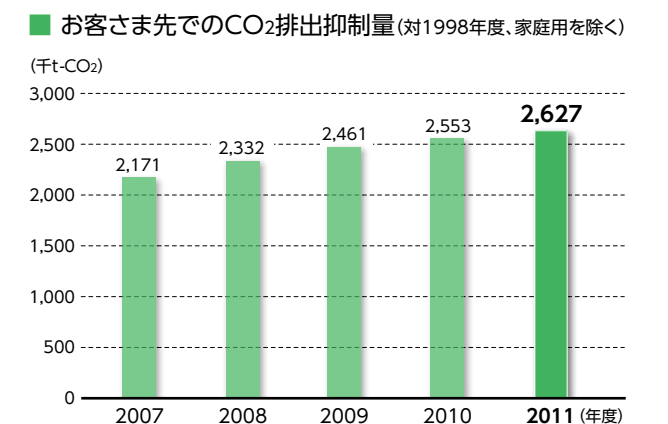
大阪ガスでは、導管工事に伴う掘削土のリデュース、分解・整備・検査を経た使用済みガスメーターのリユース、使用済みガス機器や配管工事に伴うPE管のリサイクルの「3R」に取り組んでいます。2011年度は、掘削土は従来工法に比べ42%のリデュースを、ガス機器は約90%、PE管は100%のリサイクルを実施しました。また、新たに警報器・機器梱包発泡材の全数リサイクルを目指します。



掘削土のリサイクル事業(株)オージーロードが2011年度「近畿建設リサイクル表彰会長賞」を受賞

お客さま先のCO₂排出量を7.4万トン削減

お客さま先のCO₂排出量について、法人向けでは、コージェネレーションシステムをはじめ、ガス空調、高性能工業炉などの高効率機器・システムの普及促進によって、2011年度には前年度比約7.4万トン削減し、1998年度を基準として、約262.7万トン削減しました。



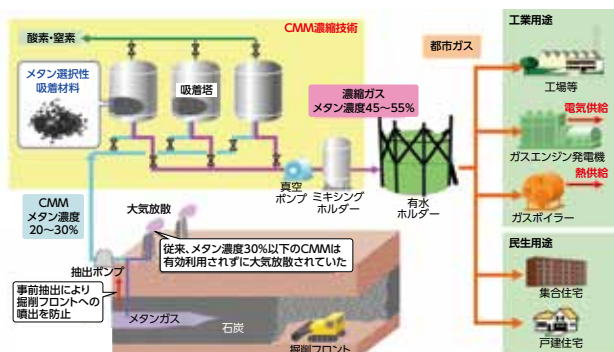
活動事例 環境との調和を図り、エネルギーと資源の

環境技術開発

中国における低濃度CMM濃縮技術の事業化推進

大阪ガスグループでは中国で低濃度CMM(炭鉱メタンガス)を濃縮し都市ガスとして供給する事業を、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構からの委託事業として開始しました。これは、現在大気放散されているCMMを当社のメタン^④吸着技術により濃縮し、潞安鉱業有限責任会社が周辺の約18,000戸に供給するもので、温室効果ガスを年平均で約10%(CO₂換算で約91,000トン/年)削減することができます。今後、中国の他の炭鉱にも本技術の導入を進めていく方針です。

■ CMM 濃縮利用概念図



木製ペレットと太陽熱を利用した空調システムを導入

日本で初めて「木製ペレット」と「太陽熱」という2種類の再生可能エネルギー^④をエネルギー源とする空調システムを京都大学宇治キャンパス内に導入し、同大学と共同して、経済性を考慮しつつCO₂削減効果を最大化するための最適制御を行う実証を開始しました。今回の共同実証では、空調システムの実際の運用ベースでの省エネルギー・CO₂排出削減効果を検証するとともに、木質ペレットの焼却残渣の肥料などへの有効利用や、更なるCO₂削減の方策についても検討します。

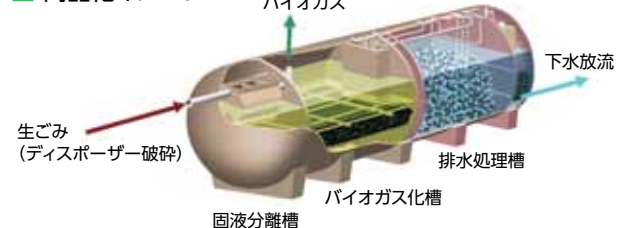


木製ペレット投入の様子

小型バイオガス^④化システム実証試験を開始

(株)ダイキアックスとともに少量の生ごみを経済的にバイオガス化する小型バイオガス化システムの実証機を開発し、2011年12月から当社社員食堂において実証試験を開始しました。本試験では、1日10kgの生ごみの処理により、0.7m³のバイオガスが安定的に発生することなどを確認しました。その結果に基づき、2012年度には100kg/日程の生ごみを処理する食品関連事業者さまでの実証試験を予定しており、2013年度の商品化を目指しています。

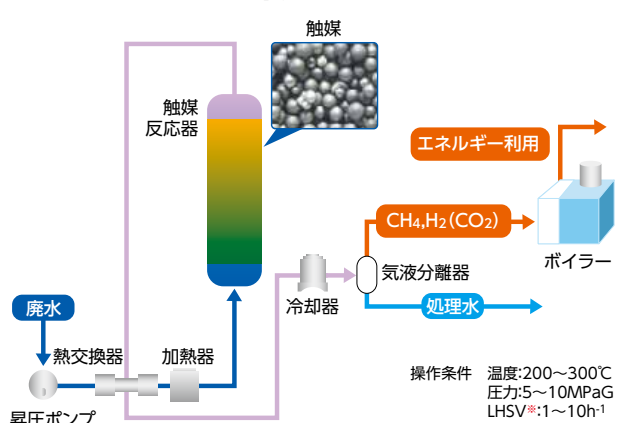
■ 商品化イメージ



エネルギー創出型廃水処理プロセス実証試験

大阪ガスは、化学工場などで発生する有機廃水を、触媒技術を用いて高速で分解処理する方法を開発しました。本法では処理過程で創出されるガスを工場内でボイラなどの燃料として有効利用することができ、従来の燃焼処理に比べてCO₂排出量を約110%、廃水処理コストを約40%削減することが可能です。2010年度から実際の工場廃水に対する実証試験を実施しています。

■ エネルギー創出型廃水処理プロセス



※ LHSV: Liquid Hourly Space Velocity (液空間速度)の略号で、液流量を触媒容積で除したもの

効率的利用を実現する

環境マネジメントシステム^④と環境リスク対策

ISO14001の全社統合認証を継続

大阪ガスは、1997年度から各部門でISO14001の認証取得を進め、2005年度までに全社をカバーすることができました。2006年度からは、全社一体となった環境マネジメントシステム(EMS)の統合を進め、2007年12月に全社統合認証を取得し、統合認証を継続しています。EMSを通じ、全社員で事業活動における環境負荷の低減、環境法令遵守の徹底を図っています。

■ 大阪ガスのISO14001認証取得時期

部門名	認証取得時期
ガス製造・発電事業部	1997年10月
本社ガスビル	2001年 9月
エネルギー技術研究所	2002年 7月
導管事業部	2005年 5月
エネルギー事業部	2006年 2月
リビング事業部	2006年 3月
全社統合	2007年12月

国内80社の関係会社でEMSを構築

大阪ガスグループでは、グループ共通規程「環境管理に関する規程」のもと、原則として、国内にある全ての関係会社においてEMSを構築・運用しています。

■ 関係会社のEMS構築・運用状況(2012年4月1日現在)

種類	規格の概要	構築数
ISO14001	ISO(国際標準化機構)が策定した国際的なEMSの規格	12社
エコアクション21(EA21)	環境省が策定した「EA21ガイドライン」に基づくEMS規格	3社
KES	京都市と京(みやこ)のアジェンダ21フォーラムが策定したEMS規格	2社
大阪ガス版EMS(OGEMS [®])	「エコアクション21」を参考に、大阪ガスが関係会社向けに独自に策定した規格	66社

※3社でISO14001とOGEMSを構築のため、EMSの構築社数は80社になります。

環境リスク対策

環境リスク対策として、化学物質の関係法令を遵守した適切な管理を行うとともに、石炭ガス製造工場跡地での土壌・地下水の保全を継続しています。なお、2011年度も、環境法令違反はありませんでした。

中期環境目標と2011年度実績

2011年度を目標年度とする中期環境目標は、「CO₂排出量の削減」「廃棄物の排出抑制・再資源化促進」「掘削土^④最終処分量の抑制」等ほぼ全ての項目について目標を達成しました。

■ 大阪ガスの環境負荷削減(都市ガス事業を対象) 目標と実績

第三者検証済 ビューローベリタスジャパン株式会社による第三者検証済みです。

項目	指標	2011年度目標	2011年度実績
環境経営効率の向上	全環境負荷金額換算値/ガス販売量(円/千m ³)	91以下	65
CO ₂ 排出量の削減	CO ₂ 原単位(CO ₂ 排出量/ガス販売量)(g-CO ₂ /m ³)	17.9	16.7
廃棄物の排出抑制・再資源化促進	製造所 最終処分率(一般廃棄物・産業廃棄物)	0.5%	0.3%
	製造所以外 最終処分率(一般廃棄物)	9%	4.1%
	製造所以外 最終処分率(産業廃棄物)	3%	2.0%
掘削土最終処分量の抑制	最終処分率(再資源化率、有効利用率の向上)	4%	1.2%
水の有効利用	水使用量(上水・工水等使用量)(万m ³)	160	139

■ 大阪ガスグループの環境負荷削減 目標と実績

第三者検証済 ビューローベリタスジャパン株式会社による第三者検証済みです。

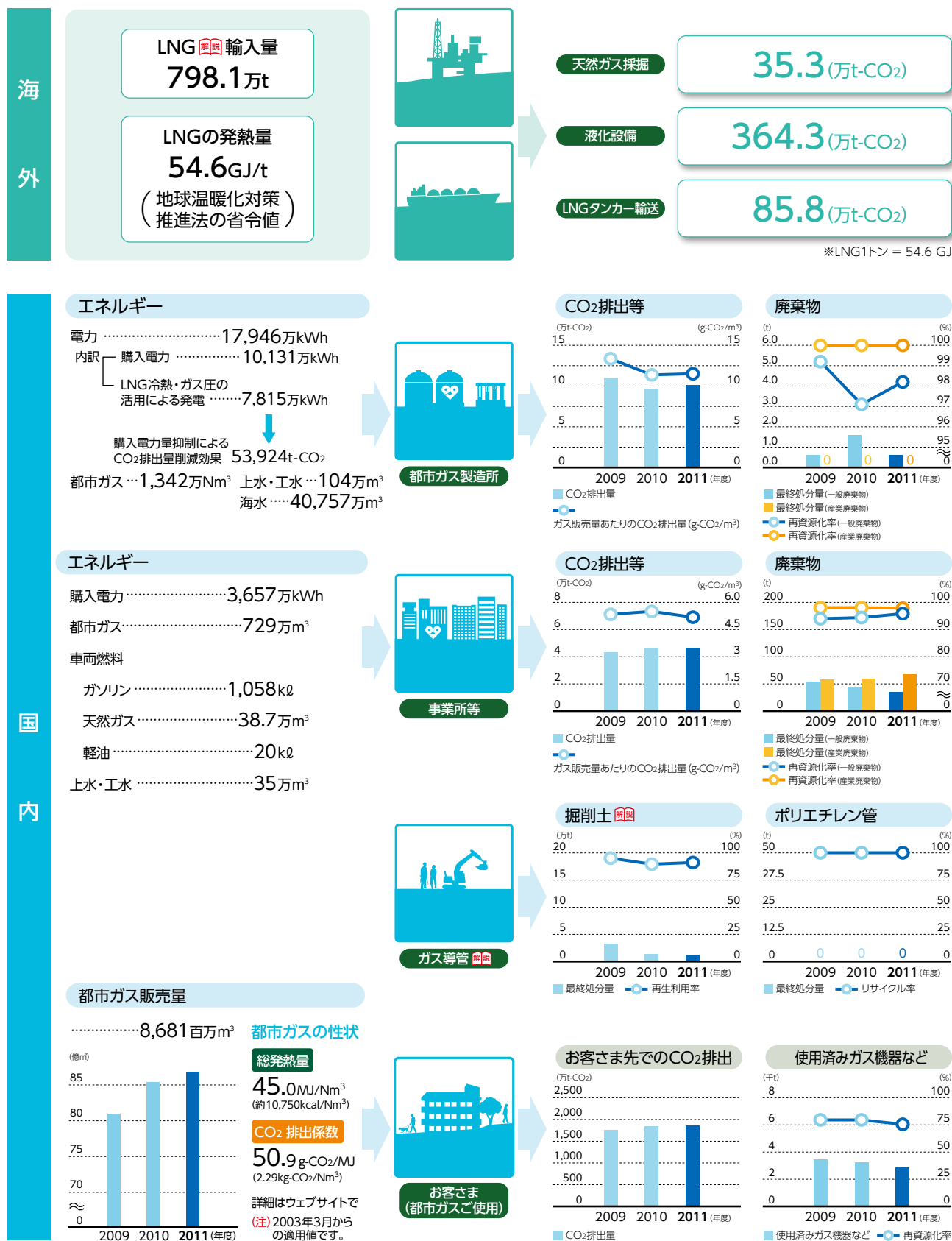
項目	指標	2011年度目標	2011年度実績
CO ₂ 排出量削減	発電事業 送電端CO ₂ 排出原単位(2008年度基準)	▲15%程度(2020年度)	▲30.7%
	地域冷暖房事業 エネルギー効率(2008年度基準)	▲1%程度	0.2%
	それ以外の事業 CO ₂ 原単位(CO ₂ 排出量/売上高)(t-CO ₂ /百万円)	0.75	0.55
廃棄物の再資源化促進*	最終処分率(一般廃棄物・産業廃棄物)	10%	8.9%

※ 対象は、中核会社4社

活動事例 環境との調和を図り、エネルギーと資源の

事業活動の環境負荷(2011年度)

第三者検証済 ビューローベリタスジャパン株式会社による
第三者検証済みです。



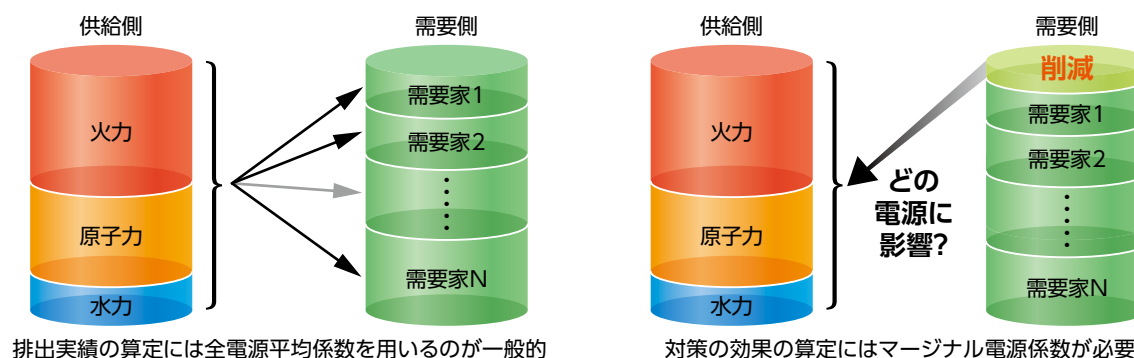
効率的利用を実現する

省電力によるCO₂削減対策の適切な評価方法とは?

「マージナル係数」を用いた適切な評価

電気は使用場所ではCO₂を排出しませんが、発電所で排出されたCO₂をお客さまが排出したとみなして算定されます。電気の使用によるCO₂排出量の計算には、一般的に購入電力の全電源平均排出係数が用いら

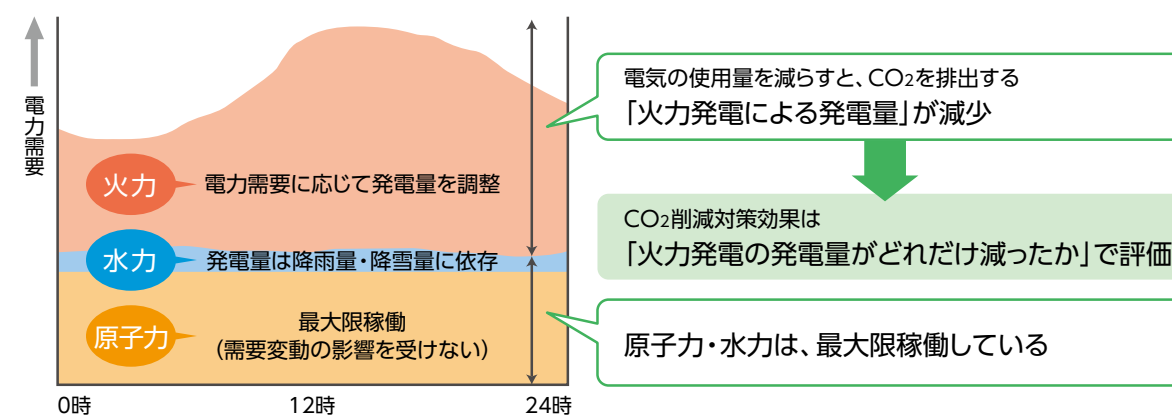
れますが、お客さまが省エネルギーなどに取り組まれて電気の使用を削減した場合は、それによって年間の発電量に影響を生じる電源(マージナル電源)の係数で評価する必要があります。



日本におけるマージナル電源とは?

日本では原子力、水力発電は最大限稼働しているため、マージナル電源は「火力電源」と考えられます。

電源別発電パターンイメージ(※東日本大震災前)



全電源平均係数とマージナル係数

購入電力を減らすことによるCO₂削減効果をマージナル係数で算定する方法は、国際的に標準的な考え方であり、日本の行政資料にも採用されています。このマージナル係数と全電源平均係数は以下のように大き

く異なるので、全電源平均係数による評価では、太陽光発電などの新エネルギーの導入による温暖化防止効果が過小評価されてしまう可能性があります。



社会とのコミュニケーション

大阪ガスグループは、自らの企業活動を世の中に正しく理解していただくため、情報を積極的に公開し、経営の透明性を高めるとともに、社会とのコミュニケーションを推進します。また、良き企業市民として、地域社会に貢献するよう努めます。

Highlight

- 社会貢献ホームページの開設
- 運動クラブ、文化クラブによる社会貢献活動
- 社会貢献フォーラムの実施
- 地域の自然保全への貢献（大阪ガスセキュリティサービス（株））
- 東日本大震災・台風12号被災地への支援（義援金、ボランティア参加）

目標と実績

CSR指標：

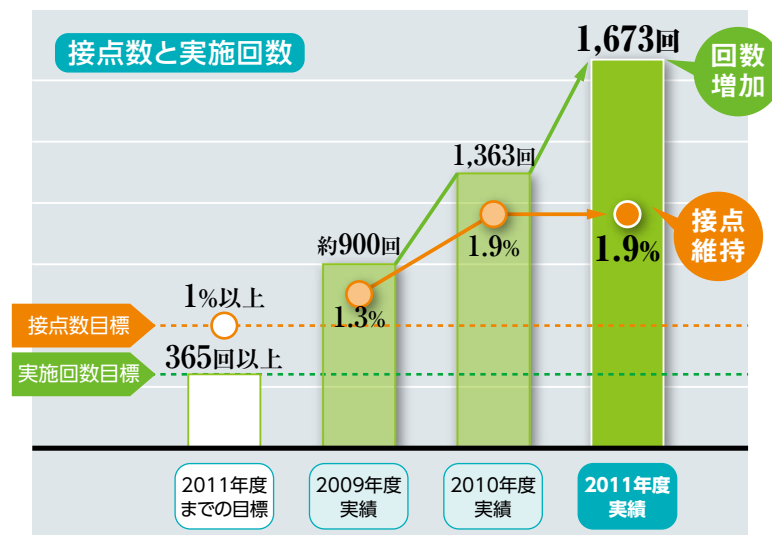
コミュニケーション機会の接点数と実施回数

「接点数」とは、ガス科学館・姫路ガスエネルギー館の来館者数、「食育」「エネルギー環境教育」などの受講者数、販売目的とは異なるイベント・セミナーなどへの来場者数を2011年度末のお客さま数で割った比率です。「実施回数」とは、コミュニケーション活動などを実施した回数です。

	接点数（来場者数）	実施回数（イベント・セミナー数）
2011年度までの目標	全お客さま数の1%以上	365回以上
2011年度の実績	1.9%	1,673回

2011年度実績について

次世代育成においては、「食育」「エネルギー環境教育」に加え、火に親しみ、火を学ぶ「火育」と、スポーツを通じた子どもたちの健全な成長と次世代トップアスリート育成を目指すスポーツクラブ「NOBY（ノビィ）T&F CLUB」が本格的に活動を開始し、指標の実施回数が増加しました。また、東日本大震災および台風12号による水害の被災地に対して、何らかの関わりを持ちたいと、グループ従業員の社会貢献マインドが例年以上に高まったことを受け、福利厚生制度を活用した「大阪ガスともしびクラブ」など寄付の機会を積極的に設けたほか、ボランティアを継続的に派遣するなどしています。



と社会貢献



大阪ガス（株）
執行役員 近畿圏部長
稲村 栄一

責任者より

大阪ガスグループの特長を活かして、社会貢献活動を更に充実させていきます。

東日本大震災に際しては、復旧ボランティアや義援金などの活動に大勢の従業員が参加しました。これを一過性のものととどめるのではなく、グループの社会貢献風土の一層の醸成を目指します。

また、復興支援では、改めて自分たちに何ができるのかを考えさせられました。事業を通じて得られた技術やノウハウなどの独自の資産を活用した社会貢献は、企業のアイデンティティや従業員の誇りを高めることに繋がるものであり、今後も更に力を入れていく予定です。

基本的な考え方

大阪ガスグループは、持続可能な社会の発展に全力で取り組むため、「小さな灯」運動などの慈善活動や地域貢献活動を継続するとともに、社会が直面する問題の解決にも積極的に取り組みます。これらの活動を推進するため、社内の仕組みを整備するとともに、従業員の意識向上、活動支援に努めます。

2011年度のお客さまとのコミュニケーション事例

健康などの生活分野や、社会の安心と安全の向上を目指した取り組みを推進しています。

暮らし

従業員の社会貢献
マインド向上

環境の保全に取り組むとともに、環境に関する先進的な知識の普及に努めています。

環境

地域社会の活性化と発展に向け、人材・施設・技術など保有する資源の積極的な活用を行います。

地域



地域の皆さまに日頃の感謝を込めて、製造所や研究所に近隣の方々をお招きしてのアトラクションイベントのほか、事業所周辺の清掃ボランティア、地元中学生の職業体験学習の受け入れなども行っています。

小・中・高校を対象とした出張授業「エネルギー環境教育」のほか、市民講座、各種環境展などにて意識啓発に貢献しています。また、2005年から和歌山県の熊野古道に隣接した森林で保全活動「大阪ガスの森」を実施しています。



活動事例 良き企業市民として地域社会の期待に応えていく



子どもたちとともに ～火育・食育～

食の学びや火に親しむ機会を提供し、次世代を支援

子どもたちが「火を使い、体験する」「自分で作って食べる楽しさを体験すること」で、豊かな心を育み生きる力を高める「火育」「食育」を推進しています。2011年度は火おこし体験を20回、「ガスコンロのしくみ・燃焼」出張授業を37回、計2,800人に体験していただきました。食育学習教材「なぜ?なに?食育Book」は4年前からご希望の小学校に無償提供しています。



「火育」活動



子どもたちとともに ～エネルギー環境教育～

出張授業を年間743回実施

地球環境やエネルギーへの関心を背景に、小・中・高校生を対象に出張授業「エネルギー環境教育」を2011年度は、743回実施しました。また、ガス科学館・姫路ガスエネルギー館では子どもたちに見学していただくなど、環境教育に積極的に取り組んでいます。

2011年8月には、教育関係者を対象に「第1回エネルギー・環境教育セミナー」を開催し、100人超の方に参加していただきました。



冊子教材「みんなで考えよう! 地球環境とエネルギー」



エネルギー環境教育パンフレット

数字で見るCSR活動

5,603万6千円

被災地(東日本大震災、台風12号)へのお客さまや従業員からの義援金

14回 延べ88人

被災地(東日本大震災、台風12号)への従業員の復旧ボランティア

743回 31,329人

エネルギー環境教育(出張授業)の回数、受講者数

12万5千冊(累計)

食育学習教材「なぜ?なに?食育Book」を小学校へ無償提供

えていく



地域貢献活動〈大阪ガスセキュリティサービスグループ〉

淀川周辺の自然と安全を守って地域社会に貢献

大阪ガスセキュリティサービスグループは、2011年2月に創業30周年を迎えたのを機に、地域の方々の暮らしや環境を守る活動にこれまで以上に注力し、淀川環境保全や淀川区周辺の防犯活動に協力していきます。

この活動の一環として2011年6月、「知って愉しむ淀川」をテーマに、淀川と人間の関わりや歴史や生態系の変化に関する講演会を開催し、約250人の市民の皆さまに参加していただきました。



「淀川“わんど”クリーン大作戦」にボランティアとして参加



チャリティカレンダー



良き企業市民として

発足30周年を記念し“小さな灯”基金より助成金を贈呈

大阪ガスグループ“小さな灯”運動は、大阪ガスグループ各社と従業員などからの善意で支えられている社会貢献活動です。2011年度は、運動発足30周年を記念して、「子ども支援市民活動助成プログラム」を通して、子どもを支えるNPO等14団体に3年間で計700万円を、児童養護施設などを出て働く20歳未満の子どもたちが生活する「自立援助ホーム」の4団体6施設に計180万円をそれぞれ寄贈しました。



“小さな灯”運動30周年のロゴマーク



地域貢献活動

野球教室と災害ボランティア活動

大阪ガス硬式野球部は、スポーツを通じた地域貢献活動の一環として「エネルギーキッズ野球教室」を定期的に開催しています。2011年11月には、台風12号による豪雨災害で甚大な被害を受けた和歌山県新宮市で「野球教室と災害ボランティア活動」を2日間開催。地元野球チームの小学生108人に実演指導を行ったほか、床上浸水した市内の畳屋さんと、畳・家財道具の運び出しや片付けなどのボランティアに全員で取り組みました。



硬式野球部による災害ボランティア活動

担当者の思い 大阪ガス(株) 近畿園部 地域活力創造チーム 朝原 宣治

「NOBY T&F CLUB」の活動を通して青少年育成に貢献します

北京オリンピックで銅メダルを獲得した後、36歳で現役を引退し、翌年から大阪ガスの社会貢献活動の一環として、陸上競技クラブ「NOBY T&F CLUB」を立ち上げました。ここでは、小学生には「遊び」をベースにしたプログラムによって、スポーツに親しみ、基礎的な体づくりとやる気を育てることを目的とし、中学生以上には、トップを目指すための本格的な陸上競技の指導を行っています。コーチには、陸上競技のトップアスリートである荒川大輔(走り幅跳び日本チャンピオン)ら後輩たちに就任をお願いしており、子どもたちにはコーチの洗練された動きから何かを感じてもらいたいと考えています。NOBYの活動を通じて、青少年の育成など、積極的に社会貢献に取り組みたいと思っています。



コンプライアンスの推進と

人権の尊重

大阪ガスグループは、全ての役員および従業員が、コンプライアンスを確実に実施することで、社会からの信頼を得る健全な企業グループを目指します。また、コンプライアンスとは、法令遵守だけでなく、社会の一員としての良識ある行動までを含む幅広いものと捉え、お客さま、取引先さまなど全てのひと々と公正な関係を維持し、人権の尊重に努めます。

Highlight

●「大阪ガスグループ企業行動基準」の改定、周知

2011年7月、ISO26000等を踏まえて、「大阪ガスグループ企業行動基準」の内容を大幅に改定し、グループへの周知活動を行った。

●予兆データモニタリング

コンプライアンス上の問題の兆しをいち早く把握する「予兆データモニタリング」に新たに取り組んだ。

目標と実績

CSR指標：

従業員コンプライアンス意識調査スコア

大阪ガスグループでは、「人権尊重」を含むコンプライアンスの浸透・定着状況を把握し、今後の施策に反映させるための意識調査を2003年度から毎年1回実施しています。「企業行動基準の意識度や理解度」「法令に関する知識度」をCSRの重要指標とし、そのスコアを前年よりも向上させることを目標としています。調査は、グループ従業員のなかから無作為に選んだ4,000人にアンケートを実施し、無記名回答を得るものです。

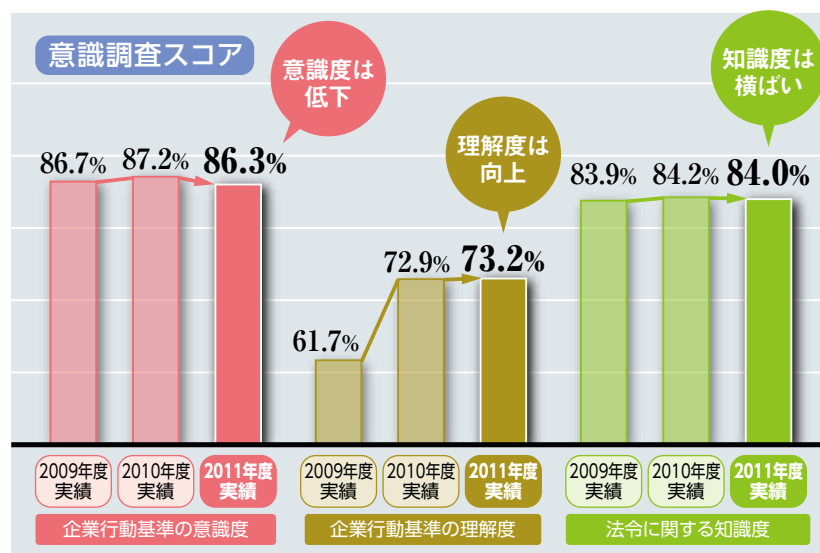
従業員コンプライアンス意識調査スコア

毎年、前年より向上させ続ける

「企業行動基準の理解度」は向上
「企業行動基準の意識度」は低下
「法令に関する知識度」は横ばい

2011年度実績について

CSR指標として、「企業行動基準の意識度」「企業行動基準の理解度」「業務に関する法令の知識度」の3項目を設定しています。「理解度」は前年よりも向上、「意識度」「知識度」は低下、または、横ばいとなりました。「意識度」「知識度」とも85%前後で推移しており、高い水準を維持しています。一方、「理解度」は向上しているものの、他の2項目と比べ水準が低く、2012年度も引き続き、コンプライアンスの体質化を目指した活動を展開していきます。



責任者より

大阪ガス(株)
コンプライアンス部長
乾 俊之

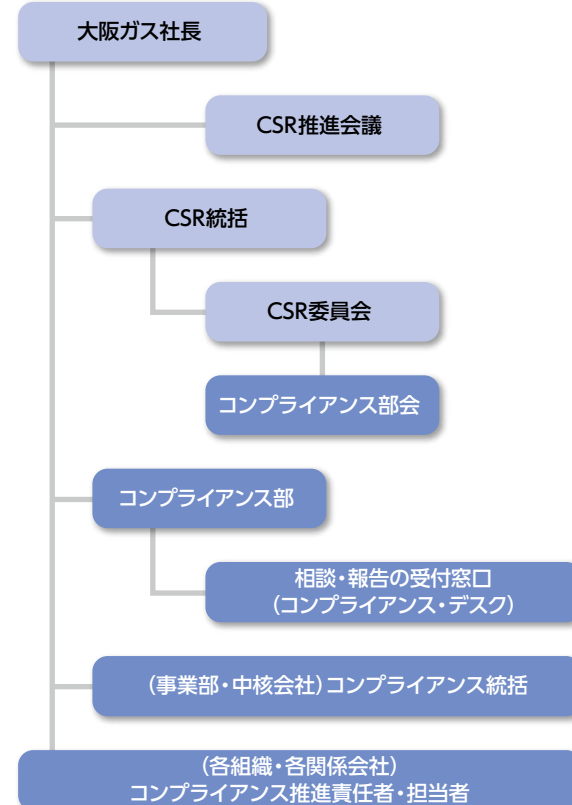
各社、各組織による「自立自走型」のコンプライアンスの体質化を図ります。

コンプライアンスは、CSRの5本柱の一つとして位置づけられ、大阪ガスグループ一体となって推進活動に取り組んでいます。現在は各組織、各関係会社が自立的に活動を展開し、従業員一人ひとりがコンプライアンスを「体質化」することを目指した活動を行っています。日々の活動や従業員の意識面でコンプライアンスが徹底されることで、大阪ガスグループの企業価値を高めていきたいと考えています。

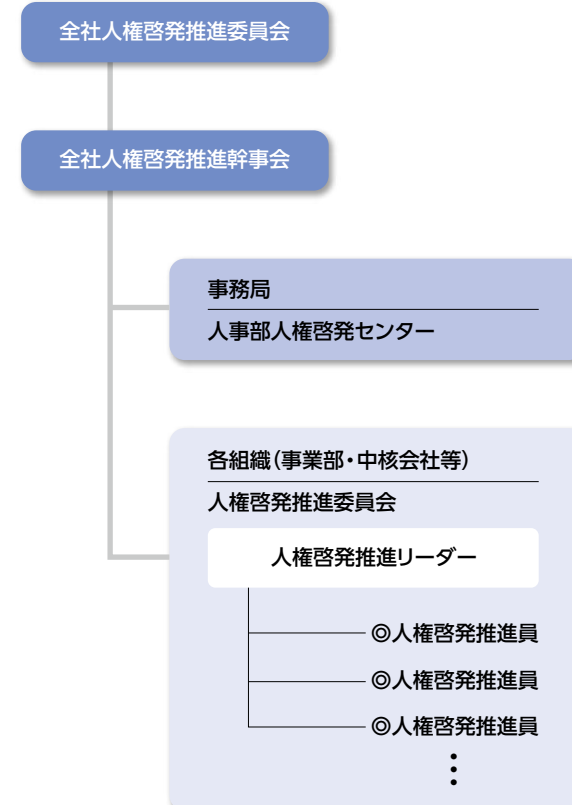
基本的な考え方

大阪ガスグループにおけるコンプライアンスとは、グループ各社が法令遵守を中心としつつ、健全な倫理観に基づく良識ある企業行動を実践するということです。これを実現するため、グループ全体でコンプライアンス、人権について取り組む体制を構築しています。また、グループ従業員だけでなく、派遣社員、取引先さまからも通報を受け付けるコンプライアンス・デスクを設置しています。

コンプライアンス推進体制



人権啓発推進体制



活動事例 コンプライアンスの確実な実施と人権尊重

に努めます

> TOPICS

ISO26000等を踏まえて「大阪ガスグループ企業行動基準」を改定

「大阪ガスグループ企業行動基準」を、2011年7月に大幅に改定しました。ISO26000などを踏まえ、特に「グローバルな事業活動における、各国・地域の法令、人権に関するものを含む国際規範の尊重」「サプライチェーンへの社会的責任を踏まえた行動促進」の視点を反映し、18項目としました。

※企業行動基準の詳細はウェブサイトをご覧ください。

PC <http://www.osakagas.co.jp/company/csr/beginning/principles.html>

人権啓発への取り組み

グループ内人権啓発活動の推進と社外活動への積極的参加

大阪ガスグループでは、毎年、人権啓発のスローガンと活動計画を定めて、人権を尊重する風土の醸成に努めています。2011年度は「人権尊重の職場風土を醸成する～自分の言動を振り返ろう～」のスローガンのもと、人権啓発に関する体制面、教育面の強化・充実とともに、情報発信、対外活動への積極的な参加を行い、社内の人権研修には延べ14,627人が、社外講座には延べ108人が参加しました。



標語ポスター

コンプライアンス推進の取り組み〈オービス総研グループ〉

グループ各社の拠点に出張研修をしています

オービス総研グループ※では、コンプライアンスの徹底を図るため、コンプライアンス窓口の担当者がグループの各職場に出向き、集合研修を実施しています。研修は、情報サービス業界として特に注意すべき法令などに重点を置き、情報セキュリティ啓発DVDの視聴やケーススタディを用いたグループディスカッションを取り入れています。

2011年度は、グループ内のコンプライアンス標語の優秀作品を掲載したツールを配布し、従業員のコンプライアンス意識が高まるよう努めました。

※オービス総研グループ：(株)オービス総研、さくら情報システム(株)、(株)宇部情報システム、(株)システムアンサー



意識向上ツール(マイクロファイバークロス)

担当者の思い 大阪ガスケミカル(株) 総務部 部長 中安 敏(写真右)・マネジャー 西澤 伸幸(写真左)

知財・法務講習会を定期開催し、コンプライアンス意識の維持・向上に努めています

ファイン材料や炭素材料製品等を取り扱う大阪ガスケミカル(株)および、活性炭や木材保護塗料・工業用保存剤等を取り扱う日本エンバイロケミカルズ(株)を核とする、大阪ガスケミカルグループでは、最先端材料の開発という事業特性上、業務遂行にあたっては知的財産権関連法令の遵守を特に重視しています。

そこで、独自の人材育成体系に基づき、知的財産権関連法令や契約関連法令等をテーマとした従業員向けの知財・法務講習会を定期的で開催しています。講習会で使用するテキスト冊子は、業務にすぐに役立てられるよう社内で独自に作成しています。今後も、当講習会の開催等を通じて、従業員のコンプライアンス意識の維持と向上に努めていきます。



グループ独自の講習会用テキスト



コンプライアンス・デスク受付担当者向け研修



コンプライアンス推進担当者向け研修



組織長・管理者向け人権講演会

コンプライアンス推進の取り組み

データを活用し、コンプライアンス上の問題を防止する取り組みを開始

コンプライアンス上の問題の兆しを把握する「予兆データモニタリング」を大阪ガスグループ全体で2011年度から開始しました。この取り組みは、データを洗い出し、定期的・継続的にモニタリングを行うことで、データの変化から異変を予見し、早期に対策を講じることでコンプライアンス上の問題の発生を未然に防止する取り組みです。

コンプライアンス推進、人権啓発の取り組み

改定した企業行動基準の周知活動

コンプライアンス推進責任者・推進担当者向けに改定内容の説明と、人権尊重の重要性について再徹底しました。グループ全従業員に「行動基準関連携帯カード」(名刺サイズ)を配布し、各社、各組織で周知活動を行いました。また、取引先にも企業行動基準をお渡しし、その考え方を理解していただくよう努めました。



行動基準関連携帯カード(名刺サイズ)

数字で見るCSR活動

108件

コンプライアンス・デスク(通報窓口)に寄せられた相談・報告件数

延べ64回 2,475人

コンプライアンス部主催で開催した研修の回数、受講者数

14,627人

人権に関するグループ内研修に参加した従業員数

人間成長を目指した企業

大阪ガスグループは、雇用の確保を図るとともに、従業員の個性と自主性を尊重し、仕事を通じて人間的成長を図ることのできる企業を目指します。また、常に研鑽と啓発に努め、お客さま、社会の期待に応える新しい価値を生み出すように努力しています。従業員と会社とは、相互に信頼感と緊張感をもって、グループ各社の健全な成長をとともに高めます。

Highlight

- 次世代育成支援対策法に基づく第3期行動計画の届出および実施
- 大阪ガスグループ会社への各種支援策の検討および策定（研修支援メニュー等）
- 新人事制度の思想のもとコース別人材育成を開始

目標と実績

CSR指標：

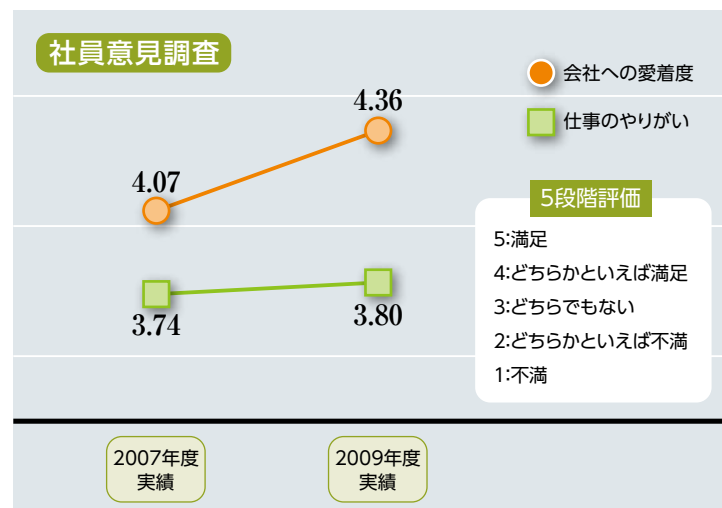
社員意見調査(やりがい、愛着度)

大阪ガスでは「社員意見調査」を実施し、従業員が自分の業務や職場環境・上司・制度等について日頃どう考えているかを継続的に調査しています。個々の従業員が「仕事のやりがい」「会社への愛着」等16のカテゴリーそれぞれの満足度を5段階評価するとともに、自由意見を記入しました。直近の「社員意見調査」は、2009年度に全従業員を対象に実施したものです。この調査の結果を反映し、2010年度に新しい人事制度の設計と関係者間調整を行い、2011年度に新人事制度を導入しました。次回調査は2012年度に実施し、新人事制度について意見も聴取する予定です。



2011年度活動実績について

今回の「社員意見調査」は、2011年4月に導入した新人事制度の運用状況を受け、2012年度に実施します。2011年度は、育成コース別研修の実施や、大阪ガスグループ向け研修の見直しを行いました。さらに、ワーク・ライフ・バランスの更なる推進を目的に「在宅勤務制度」の導入を検討したほか、育児支援策としては、社内健康開発センターに妊娠・育児期の健康相談窓口を設置し、本人やその家族からの相談を受け付ける体制を整えました。また、「介護セミナー」の開催や「仕事と介護 両立支援BOOK」を作成しました。



経営

大阪ガスグループ全体で、人間的成長を図る取り組みを進めます。

人は企業にとって重要な要素で、「人財」とも言われています。大阪ガスグループでは従業員が仕事を通じて人間的成長を実現できることを目指しており、大阪ガスおよび関係会社各社が従業員価値向上を目指した独自の取り組みを行ってきました。大阪ガスでは2011年度から従業員の更なる成長を目指した新たな人事制度を導入しました。また、2012年度からは採用・人材育成などの取り組みを大阪ガスグループ全体で進めていきます。

責任者より



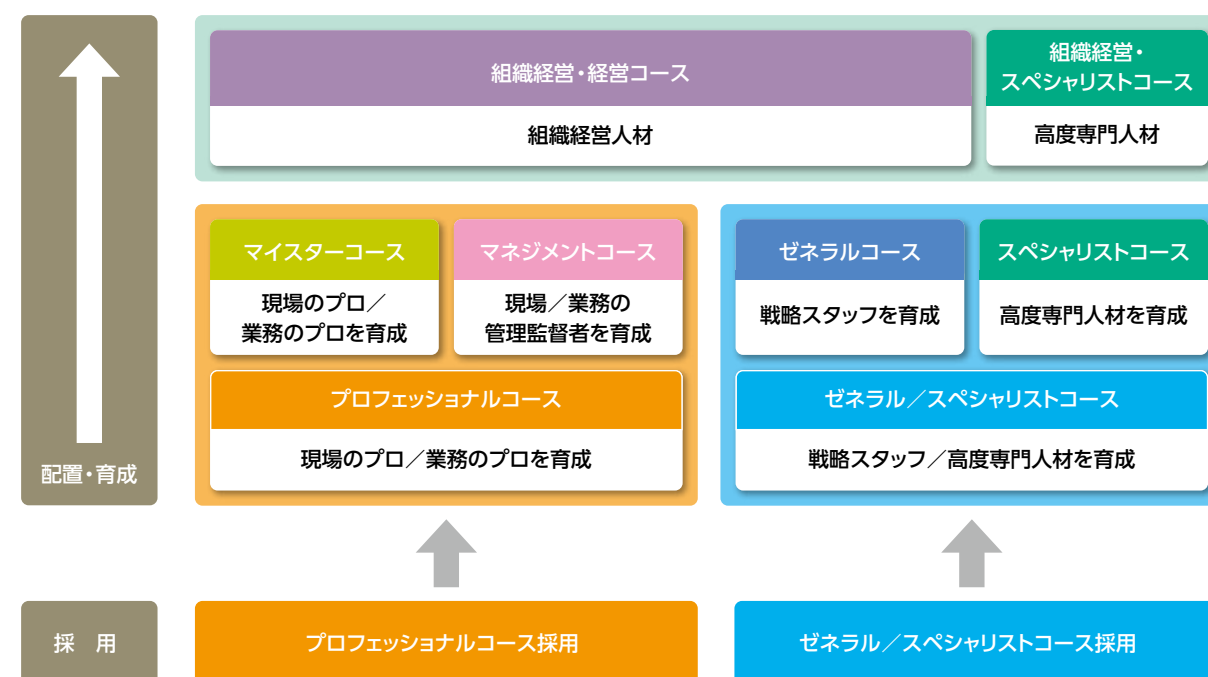
大阪ガス(株)
執行役員 人事部長
藤原 敏正

基本的な考え方

大阪ガスグループは、全ての従業員が仕事を通じて人間的成長を図ることができる企業を目指しています。従業員の個性と自主性を尊重し、多様な価値観を認め合う企業風土づくりと組織マネジメントを行っています。また、従業員の安全と健康は企業経営を行ううえでの根幹と考え、労働安全衛生、ワーク・ライフ・バランスにも努めています。

育成コース別の人事制度を導入

大阪ガスでは、長期経営ビジョン・中期経営計画「Field of Dreams 2020」の実現をはじめとする会社の継続的な成長・発展のために、全ての社員に「役割」と「期待」を明示し、役割別に適切な採用・育成・評価・配置を行う新たな育成コース別の人事制度を、2011年4月に導入しました。育成コースは、マイスターコース、マネジメントコース、ゼネラルコース、スペシャリストコースの4つがあり、社員自らがコースエントリーを行います。選択したコースで各社員が活躍できるように、各育成コースで求められる能力を身に付けるための研修を計画的に実施しています。



活動事例 個性と自主性を尊重し、仕事を通じた人間的成長を図る

多様性の確保

障がい者・高齢者が働きやすい職場を整備

大阪ガスは、障がい者の雇用、高齢者の再雇用に積極的に取り組んでいます。個々の適性に応じた就業環境整備に力を入れており、障がい者雇用率は2012年4月現在2.21%と、法定雇用率(1.8%)を上回っています。また、60歳以上の定年退職者を対象にした「再雇用嘱託制度」では、社内公募による希望者と職務のマッチングを行っており、2011年度の再雇用就業人数は76人と年々増加しています。

■再雇用嘱託制度の活用状況

定年退職時期	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
定年退職者数(人)	90	126	110	114	138
再雇用希望者数(人)	45	65	65	92	87
再雇用就業人数(人)	45	65	59	72	76
うちフルタイム勤務(人)	—	8	23	12	10



「はぐみ休暇」を使って育児をする従業員



尾崎社長(左から3人目)による職場巡回



キャリアデザイン研修



協力会社さまとの現場安全確認風景

多様性の確保

女性従業員の活躍支援

大阪ガスでは、女性が能力を発揮して活躍できる職場環境づくりに努めており、ワーク・ライフ・バランスの推進や、本人の適性・希望をふまえたキャリアアップ支援を継続的に実施しています。女性従業員は、ガス製造、供給、営業など様々な職場で活躍しています。



女性が活躍できる職場づくりを推進

ワーク・ライフ・バランス

子育て支援の取り組みが評価され「くるみん」を継続して取得

大阪ガスでは、子が満3歳になるまで取得可能な「育児休業」や、小学校3年生を終えるまで取得可能な「短時間勤務」などの制度充実とともに、育児休業中の会社とのコミュニケーション機会の確保や、電話相談サービスなど、安心して育児と仕事の両立ができる環境づくりを労使が協力して進めてきました。こうした取り組みが評価され、2007年および2011年の2回にわたり、次世代育成支援対策推進法に基づく認定マーク「くるみん」を取得しました。



厚生労働省認定「くるみん」マーク



オリジナルの「仕事と子育て両立支援ガイドBOOK」を対象者に配布

人材育成と処遇

グループの人材育成支援を目的に研修メニューを体系化

大阪ガスグループ各社を対象に行っていた人材育成支援策の一層の充実を図るため、各社への研修ニーズ調査を実施し、要望の高い研修をメニュー化して2012年度から提供していきます。また、これまで提供していた研修メニューを整理し、大阪ガスグループ向け研修メニュー全体の再構成を行いました。

■大阪ガスグループ向け研修メニューの概要

経営者	新任取締役研修 経営力研鑽プログラム
管理者	アセスメント研修(経営幹部候補向け) ミドルリーダープログラム 管理者マネジメント研修 社外事例研究会 新任管理者研修 アセスメント研修(管理者向け)
中堅層	アセスメント研修(管理者候補向け) パワーアッププログラム(管理者候補向け) パワーアッププログラム(中堅層向け) 経理・会計・法務セミナー 中堅社員キャリアアップ研修
若手・新入社員	グループ共通教育 大阪ガスグループ合同新入社員研修 キャリア社員入社研修 新入社員半年後フォロー研修 新入社員2年目フォロー研修 新人指導員研修

MOET(技術経営)プログラム
マイスター研修
チャレンジセミナー(自己選択型研修)

数字で見るCSR活動

大阪ガス 2.21%
障がい者雇用率

大阪ガス 5,841人
大阪ガスグループ 19,818人
大阪ガス・大阪ガスグループの従業員数

大阪ガス 180人
「はぐみ休暇」*の取得実績
*子の誕生から3カ月以内に1日取得できる特別有給休暇制度

安全衛生

従業員の健康管理・維持を支援

大阪ガスでは、従業員が健康で安心して働ける環境づくりに努めるとともに、従業員の健康を守り、維持するための講座や研修を開いています。女性従業員に対する健康啓発をテーマとした「WLB*ウェルネス講座」(参加者107人)の開催をはじめ、メンタルヘルス研修(新人指導員研修、管理者研修、メンタルヘルス・マネジメント検定研修)や介護関連講座(参加者100人)なども開いています。

*ワーク・ライフ・バランス



WLBウェルネス講座

担当者の思い 大阪ガス(株) エネルギー事業部 京滋エネルギー営業部 都市エネルギー第2チーム 崎園 正義

フルタイム再雇用制度を活用し、公私ともに充実した日を過ごしています

フルタイム勤務再雇用制度を利用し、特約料金でガスをお使いいただいているお客さまのガス契約更改業務に従事しています。更改に際しては、新たな契約のご説明、前年度の使用量実績、設置機器確認等が必要となるため、大阪ガスの代表として、お客さまと向き合っているとの意識を持ち、絶対にミスをせず、トラブルを起こさないよう意識して取り組んでいます。

平日は仕事、休日は趣味の「ジョギング&3人の孫の面倒」と、心身とも非常に充実した毎日を送っています。



CSRマネジメント

CSR推進体制

CSR憲章と行動基準の具現化

「大阪ガスグループCSR憲章I～V」に対応した推進体制へと刷新

大阪ガスグループは、企業の社会的責任を全うするための役員および従業員の行動の指針として、2006年4月に「大阪ガスグループCSR憲章」を定めました。社長のもと、役員などがCSRに関する活動計画および活動報告の審議を行う「CSR推進会議」、大阪ガスグループのCSR活動を統括する役員「CSR統括」のもと、組織長が委員となり組織横断的な調整・推進を行う「CSR委員会」を設置し、適切かつ積極的な活動の実践に努めるとともに、テーマに応じて随時社内外のステークホルダーとの対話の場を設定し、社会の期待に柔軟かつ適切に対応していけるよう、2010年度に現在の体制を構築しました。

CSR憲章に定める5つの領域※を全てカバーできるよう推進

体制を構築し、その事務局組織として「CSR・環境部」を設置しています。これにより、CSR憲章に沿った取り組みを強化し、社会の期待に応える高い水準の「CSR」を目指していきます。

なお、2010年度以降、ステークホルダー・ダイアログのテーマを拡大し、市民講座や大学でのゲスト講演等出前型も含め、積極的に実施しています。

※憲章Ⅰお客さま価値の創造、憲章Ⅱ環境との調和と持続可能な社会への貢献、憲章Ⅲ社会とのコミュニケーションと社会貢献、憲章Ⅳコンプライアンスの推進と人権の尊重、憲章Ⅴ人間成長を目指した企業経営

コーポレート・ガバナンス

企業統治の体制

当社では、取締役会等により定められた社内規程に則って、業務を執行する取締役および常務執行役員で構成する経営会議で専門的見地から事案を精査し、取締役会で十分に審議を尽くしたうえで意思決定を行っています。取締役会は、社外取締役2人を含む13人で構成されており、子会社等を含めた当社グループ全般に関わる重要事項を取り扱い、的確かつ迅速な意思決定と監督機能の充実を図っています。さらに当社は、執行役員制度を導入しており、執行役員は取締役会で定めた職務の執行に従事するとともに、代表取締役と取締役の一部が執行役員を兼務し、取締役会の監督機能および業務執行機能のより一層の強化を図るように努めています。また、当社は監査役会設置会社を選択しており、社外監査役2人を含む4人の監査役それぞれが当社グループの取締役の職務の執行を監査しています。

会計監査については、有限責任あずさ監査法人と監査契約を締結しています。

内部監査および監査役監査

当社は内部監査部門として監査部(21人)を設置し、年間監査計画等に基づいて、業務活動が適正かつ効率的に行われているかを監査し、社内組織および関係会社に助言・勧告を行っています。また、事業部やグループ中核会社等においては、グループ共通規程である「関係会社基本規程」および「自主監査

規程」で役割を明確に定めたうえで内部監査人を設置するなど、監査機能や内部統制機能の充実・強化に努めています。あわせて、金融商品取引法に基づく、財務報告に係る内部統制の評価を実施し、経営者に報告しています。

当社の監査役会は、社外監査役2人を含む4人で構成されており、それを支える組織として監査役室を設置しています。取締役の指揮命令系統外の専従スタッフ(4人)から成る監査役室が監査役を補助することにより、監査役の監査機能の充実を図っています。

監査部、監査役、会計監査人は、年間監査計画や監査報告等の定期的な会合を含め、必要に応じて随時情報の交換を行うことで、相互の連携を高めています。

社外取締役および社外監査役

当社は、社外取締役2人および社外監査役2人を選任しており、その独立性については、一般株主と利益相反が生じるおそれがないことを判断の基準としています。社外取締役には、取締役会の一員として意思決定に参画するとともに、監視・監督的機能を発揮することを、また、社外監査役には、取締役の職務の執行に対する監査を独立した立場から厳正に行うことを期待しています。社外取締役および社外監査役は、会社法に基づく内部統制システムの運用状況、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制の評価状況、内部監査の状況、CSR活動の状況等を、取締役会等において聴取するとともに、会計監査の監査報告の内容を確認しています。

リスクマネジメント

推進体制と職責権限

大阪ガスグループにおけるリスクマネジメントの基本単位は、大阪ガスの各組織と関係会社としています。基本単位の長は、損失の危険の管理を推進し、定期的にリスクマネジメントの点検を実施することとしています。

また、グループに共通するリスク管理に関しては、主管組織を明確にし、各組織をサポートすることで、グループ全体としてのリスクマネジメントにも取り組んでいます。

定期点検とモニタリング

独自の自己点検システム「G-RIMS」を運用しています

大阪ガスグループでは、2006年度からリスクマネジメントの自己点検をシステム化した「G-RIMS (Gas Group Risk Management System)」を導入し、あらかじめ設定したチェック項目(約170項目)をもとに、自組織(自社)の管理者がリスク等を認識して改善のPDCAサイクルを回すという仕組み

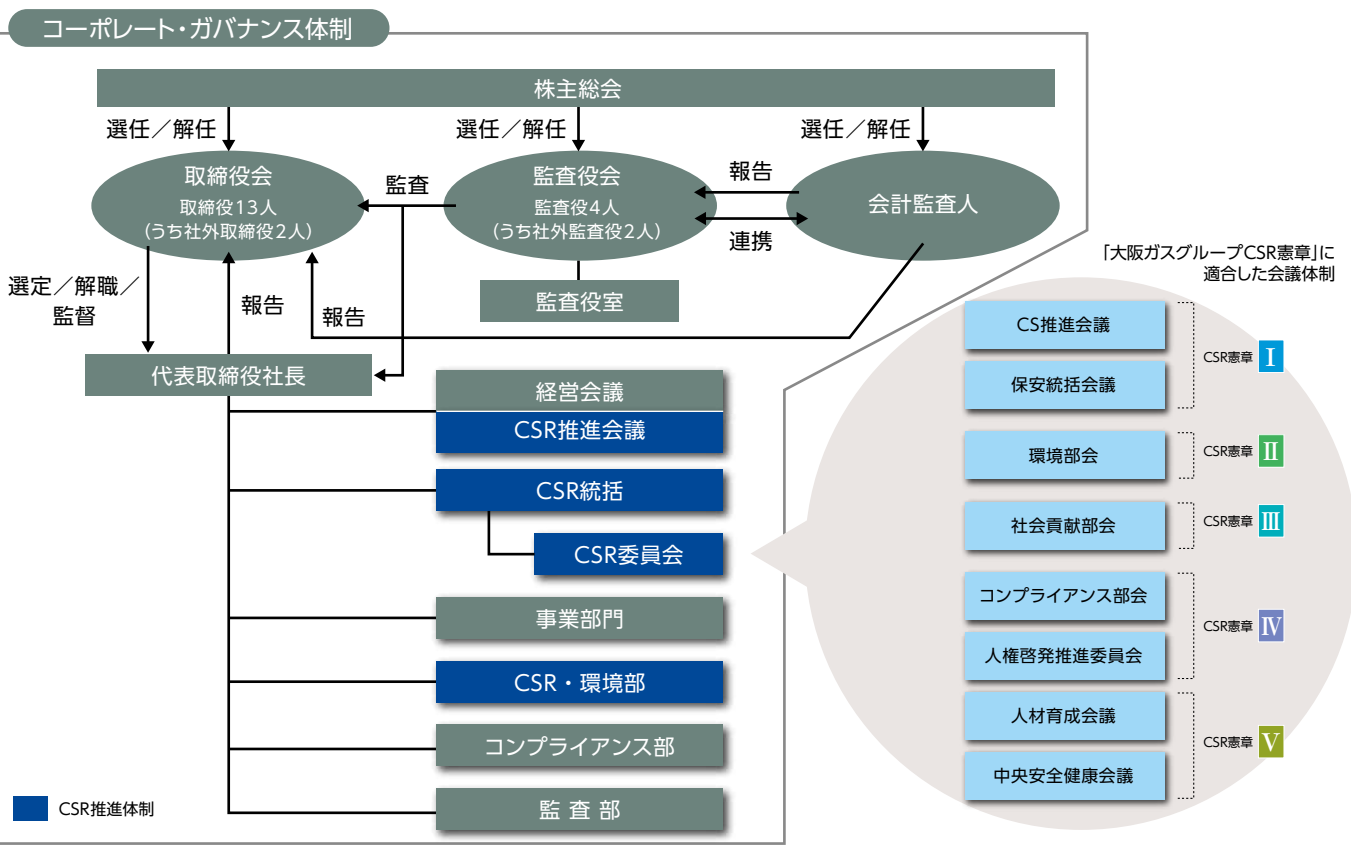
みを運用しています。G-RIMS事務局(監査部・コンプライアンス部・企画部・関連事業部)は、年1回の自己点検終了後、各組織・関係会社各社と意見交換を行い、実施状況をモニタリングするとともに、G-RIMSの結果や抽出された課題を経営幹部にも適時報告し、共有化するようにしています。

改善状況の定期的なフォロー

組織の自律的なマネジメントの強化を図っています

リスクマネジメントにかかわる点検で明確になった課題については、各組織長と管理監督者が対応を図り、改善状況について定期的に確認しています。また、事業部門・主要な関係会社等に設置された監査人が中心となって行う自主監査テーマに反映させたり、管理者自身による自己点検活動を推進するなど、組織の自律的な運営によるリスクマネジメントの強化を図っています。

これらの活動を通じて、グループ全体のリスクマネジメントのPDCAサイクルが有効に回るように努めています。



第三者意見

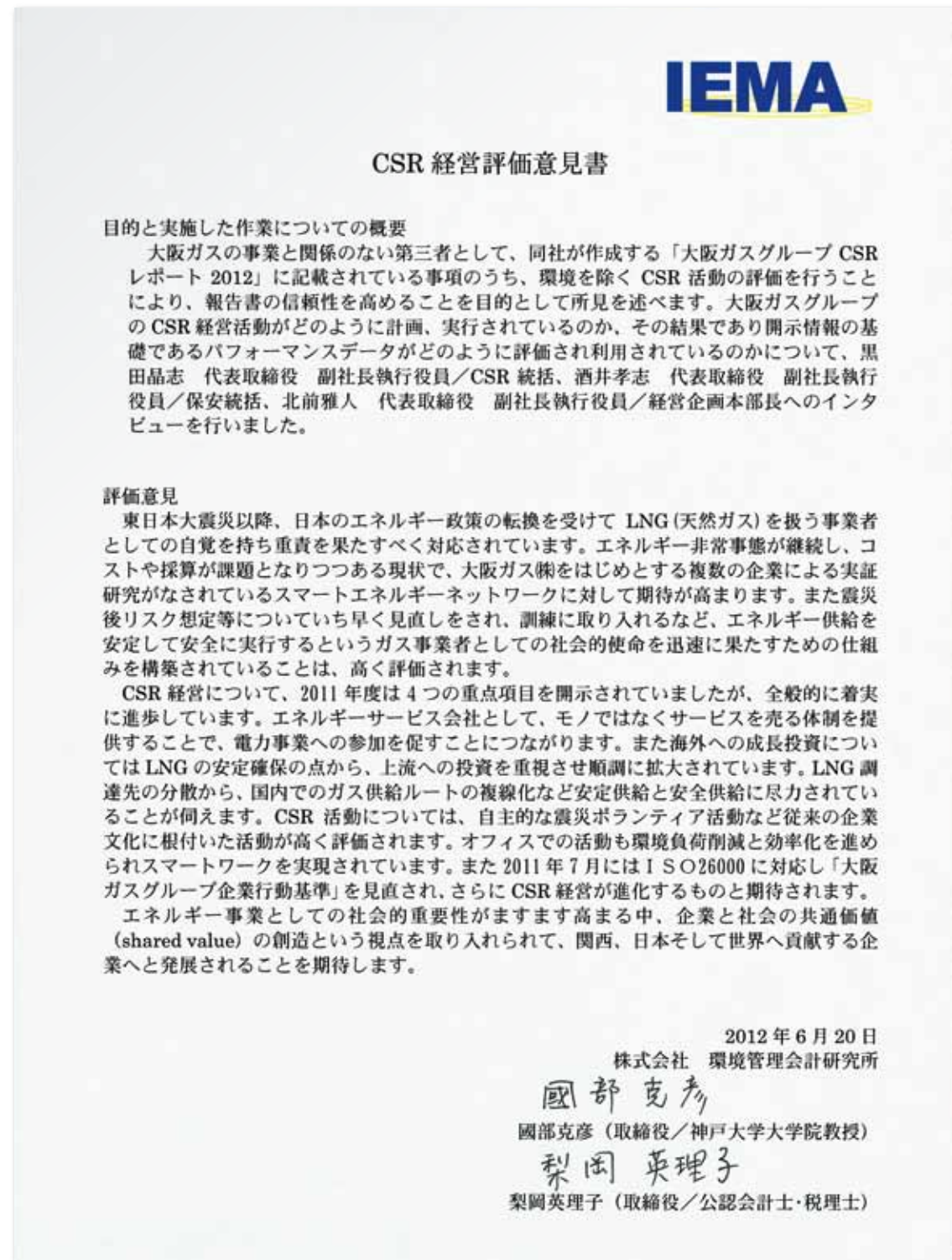
大阪ガスグループは簡易な審査を含んだ「評価・勧告タイプ」の第三者レビューを(株)環境管理会計研究所にお願いしています。

大阪ガスグループのCSRにかかわる活動がどのように計画実行されているのか、分野ごとに統括する立場の経営幹部3人がインタビューを受けました。

これらのインタビューや各種提出資料をもとに、当社グループのCSR活動に対する総評と助言をまとめた意見書をいただきました。



インタビューの様子(左から3番目が國部先生、4番目が梨岡さま)



※第三者意見書の全文については、ウェブサイトに掲載しています。

第三者検証

本レポートに掲載する大阪ガスグループの環境パフォーマンスデータについて、ビューローベリタスジャパン(株)による第三者検証を受けました。CSRレポートに記載する目的に合った信頼性および一貫性があるかどうかを検証していただきました。

検証実施事業所

大阪ガス株式会社 本社：統括機能
株式会社クリエイティブテクノロジーソリューション
千里エネルギーセンター：地域熱供給
株式会社コールドエアプロダクツ：液化窒素等の製造販売
株式会社オージーロード：掘削残土の再生処理
株式会社ガスアンドパワー 西島エネルギーセンター：電気供給



検証内容

- 本 社 1. データの収集・集計システムの信頼性、運用の適切性、および内部検証の有効性
2. 2011年度(2011年4月～2012年3月)集計データの正確性
3. 集計されたデータから導かれた結論の妥当性

- 各事業所 1. データの集計範囲の適切性
2. データの計測方法、収集方法、集計方法の有効性および内部検証の有効性
3. 計測データ、収集データの信頼性及び集計結果の正確性

この業務の実施にあたっては、最良の事例に基づいたビューローベリタスの非財務情報に対する第三者検証手順及びガイドラインを使用し、国際保証業務基準(ISA) 3000(2005)を参考として限定的保証業務を行った。

検証意見

サイトの環境データは、確立された効果的な内部システムに基づいて測定・収集・集計が行われており、重大な誤りは認められなかった。検証の過程において一部の報告データに誤りが認められたが、すべて適切に修正された。

ステークホルダーの皆さまとの信頼の絆をより強いものに



大阪ガス(株)
代表取締役 副社長執行役員
CSR統括

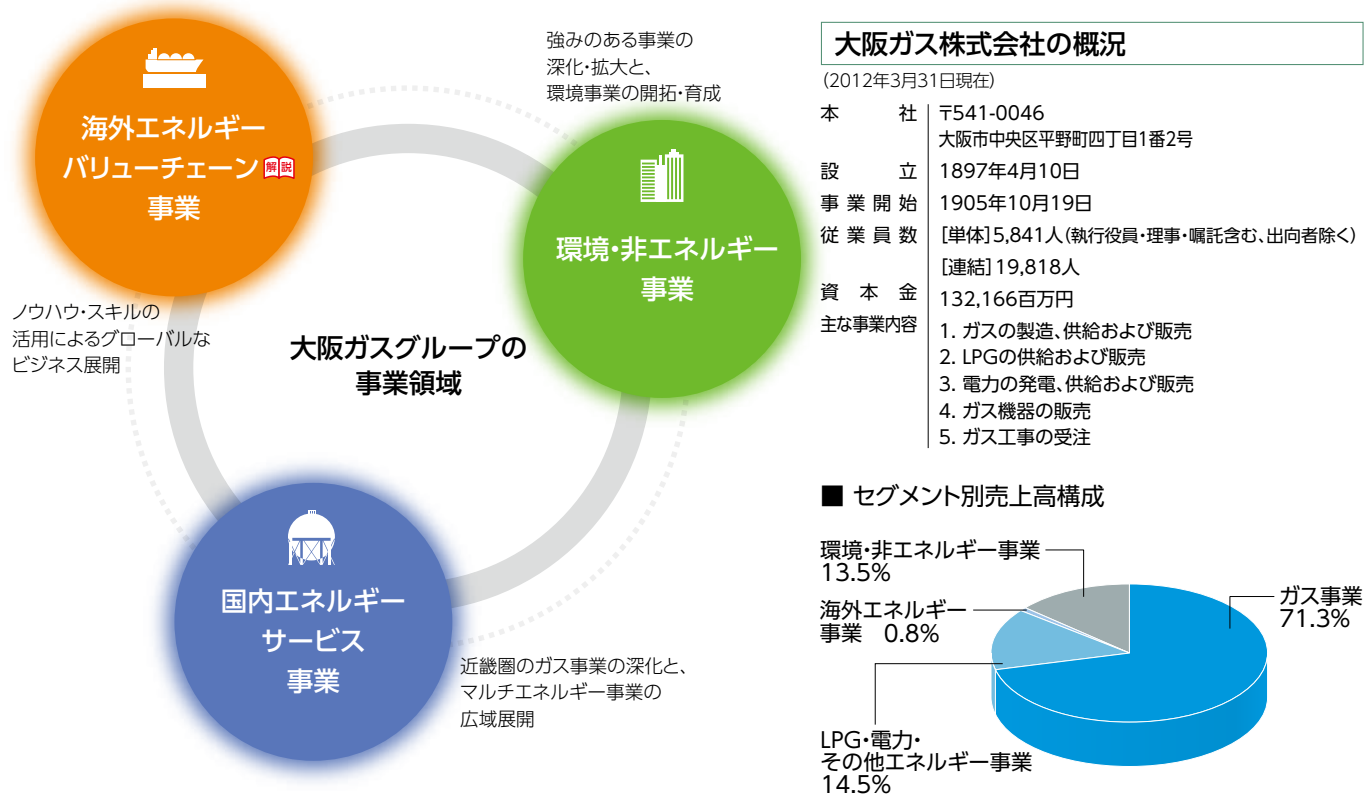
黒田 晶志

昨年の東日本大震災は、私たちに「これからのエネルギーはどうあるべきか」という根源的な定義を改めて問うものとなりました。環境性に加えてエネルギーセキュリティの確保の観点から天然ガスとコージェネレーションを中心とした分散型システムへの期待が従来以上に高まっています。大阪ガスグループは、社会の期待に十二分に応える取り組みを進めていく必要があります。

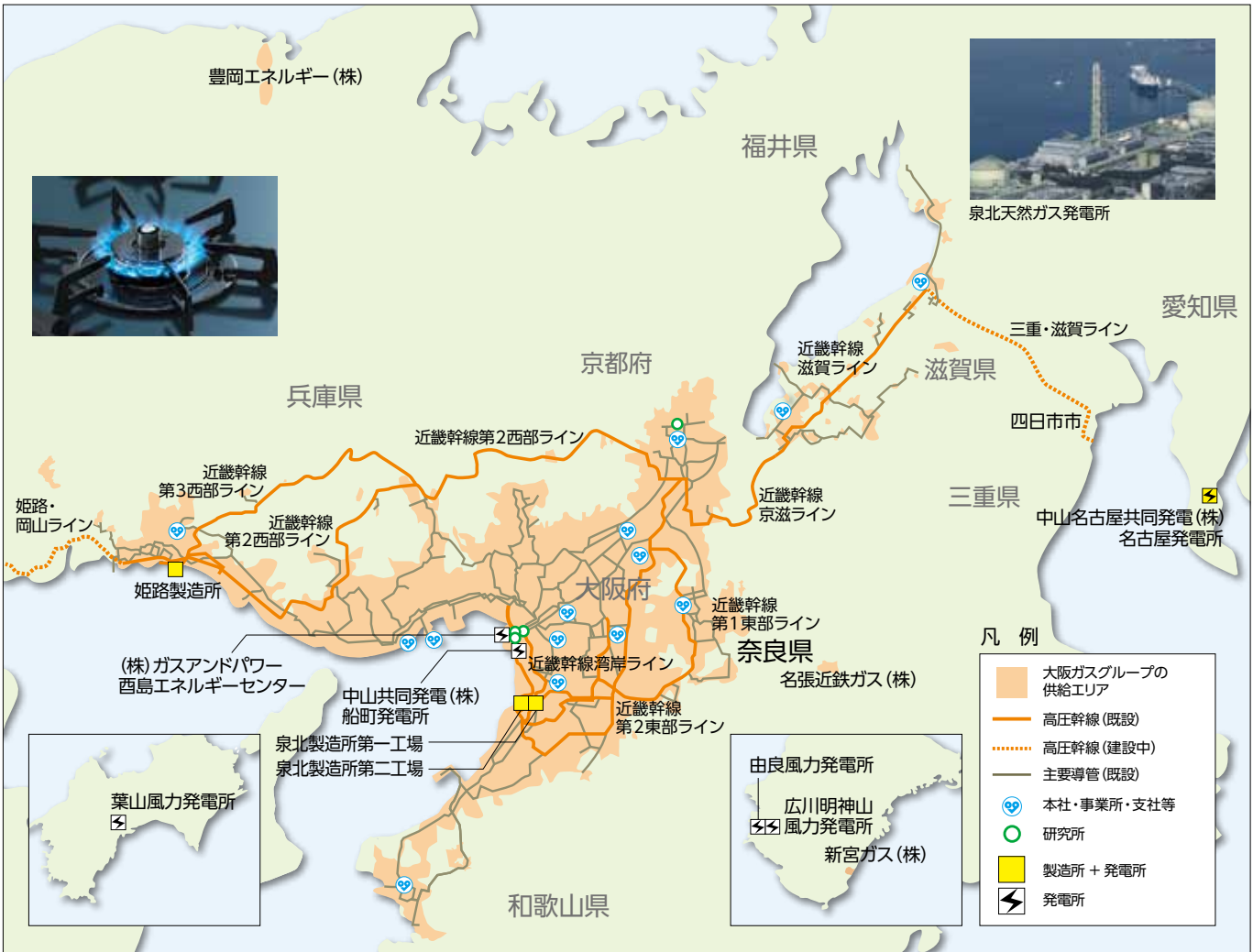
これと同時に、エネルギー事業者には、公正で透明な情報発信がこれまで以上に求められています。私たちは、発信した情報に対するステークホルダーの皆さまからの反応に真摯に向き合い、それについて対話を進められる場を複数かつ多様なかたちでご用意する必要があります。2008年から実施している有識者とのステークホルダー・ダイアログもその一つであり、2012年からはSNSも活用し、きめ細かく情報発信しながら、幅広いご意見を収集していきます。

さらに、地域との信頼の絆をより強固にするための「地域共創部門」を2012年4月に設置しました。地区の支配人を中心とした部門横断的な体制に編成し、地域コミュニティにおける情報の集約を図り適切にそのニーズを把握し、対応していきます。

私たちは、グループを超えて地域およびバリューチェーン全体を視野に入れながら社会と対話しつつ課題の解決に向けた取り組みを進めてまいります。

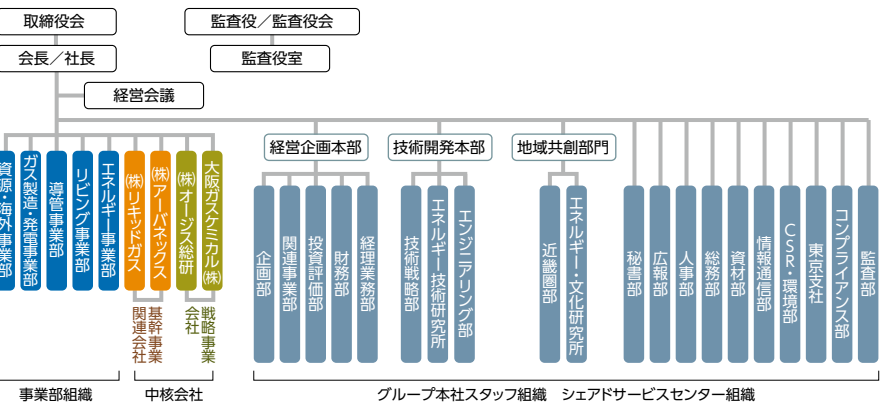


大阪ガスグループの都市ガスサービスエリア



大阪ガスグループ組織体制

(2012年4月1日現在)



関係会社の事業内容

LPガス事業・産業ガス事業 (リキッドガスグループ)

主に都市ガスの供給区域外のお客さまへ、LPガスの卸・小売りを行うとともに、LNG冷熱を有効活用した各種産業ガス事業やドライアイスの製造・販売、液化窒素を利用した低音粉砕事業等を幅広く展開しています。



都市開発事業(アーバネックスグループ)

大阪ガスグループが保有する不動産や新たに取得する不動産を活用してオフィスビル・住宅などの開発・賃貸・分譲事業、省エネルギー・CO₂排出量削減を含めた建物施設の管理・メンテナンス事業および工事の受託を行っています。また、新産業創出・産学公連携の拠点を目指すリサーチパーク事業を京都で展開しています。



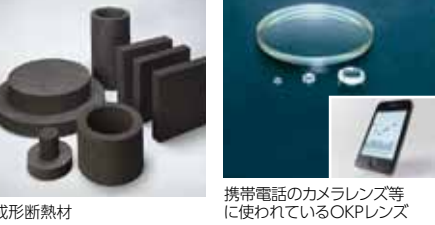
ITサービス事業(オージス総研グループ)

大阪ガスのガス事業向けのシステム開発を主体として発足し、近年では製造業、金融業、流通業など様々な業種のお客さまに情報システムの設計・コンサルティング、開発および運用・維持管理業務などの幅広いサービスを提供しています。海外では中国・シンガポール・フィリピンでのITサービスも拡充しています。



材料ソリューション事業 (大阪ガスケミカルグループ)

ガス事業で蓄積してきた石炭化学の技術などを活用した高機能材料を、エレクトロニクスから環境まで様々な産業分野で提供するとともに、お客さまのあらゆるニーズにお応えし、価値あるご提案をし続ける材料ソリューション事業を展開しています。

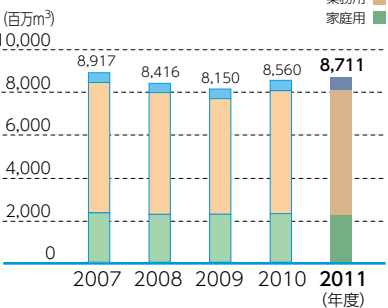


ライフサポート・アウトソーシング事業

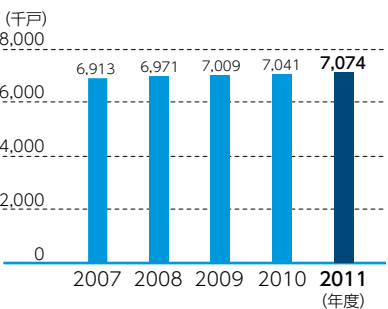
行動観察ビジネス、スポーツ施設運営、自動車などのリース、施設管理、人材派遣、有料老人ホーム事業、ブライダル事業などの幅広い事業活動を通じてお客さまのあらゆるニーズにお応えする質の高い様々なサービスを提供しています。豊かな暮らしとビジネスを支援する多彩な事業を展開することで、大阪ガスグループのブランド価値の向上を目指します。



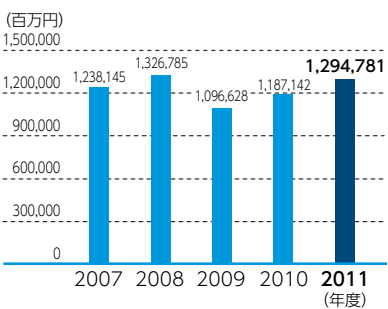
都市ガス販売量



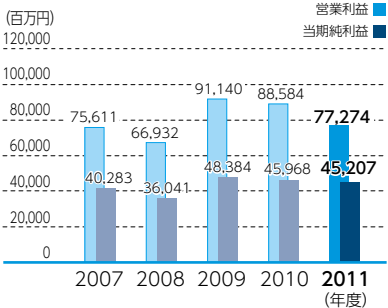
お客さま数(都市ガス取付メーター数)



売上高



営業利益と当期純利益



従業員数

